総　合　研　究

評定尺度構成に関する基礎的研究(Ⅰ)

織　田　揮　準*

Ⅰ　はじめに

ここに報告する研究は昭和41年度文部省科学研究（研究代表者　近藤貞次教授）による研究「質問紙調査法に関する研究」の一部である。この報告の主なねらいはこれまでにわが国において構成され使用されてきた評定尺度，特に程度量表現語彙を判断カテゴリー用語としている評定尺度の分析，および，評定尺度用の程度量表現語彙リストの作成と程度量表現語彙に対する児童・生徒の意味づけの実態の調査結果を示すことにある。

Ⅱ　問　題

心理学研究法の1つとしての評定尺度法は，そこに数々の問題点を含みながらも心理学の実験や調査にいろいろな形で使用されてきた。評定尺度を用いた実験や調査において信頼性や妥当性の高い資料を得るには評定尺度をいかに構成すべきかを究明することが本研究の究極の目的である。

先の研究報告[1]においては質問紙法の問題として，「研者究—被験者」間における正確な情報伝達が確保されていることが重要であるという問題意識のもとに，研究者から伝達される情報がいかなる形で被験者に理解されているか，その理解のされ方を質問項目の構成要素としての語彙の問題にさかのぼって検討した。その結果によると，児童・生徒が日常生活で使用していると思われる「あかるい人」「ずるい人」「親切な人」などの性格表現語彙のもつ具体的な意味づけは多分にあいまいであり，多義的であり，また，被験者の発達水準によってその具体的な意味づけの差異がみられた。このように研究者と被験者との相互理解が成立していると思われる日常語である性格表現語彙においても実はその意味内容は多義的，あいまいであり，具体的な行動水準での意味づけは必ずしも正しい相互理解が成立しているとはいえないことが明らかにされた。

質問項目の構成要素である性格表現語彙の意味づけの多義性とあいまい性が，評定尺度の反応カテゴリーの構成要素である程度量表現語彙，たとえば，「非常に」「かなり」「やや」「きっと」「たぶん」「たいてい」「いつも」「ときどき」などのことばの意味づけにおいてもみられるであろうか。程度量表現語彙の意味づけが，児童・生徒・成人においていかになされているか，また意味づけの差異が被験者の発達水準によっていかに異なるかといった程度量表現語彙の理解・意味づけの研究が進められない限り程度量表現語彙を反応カテゴリーとする適切な評定尺度に構成されないであろうし，また，得られた資料の適切な処理・解釈もできないであろう。

このような問題意識のもとに，従来の心理学研究においてなおざりにされてきた評定尺度の構成要素である程度量表現語彙，特に，「非常に」「かなり」「やや」「きっと」「たぶん」「ときどき」「たまに」などの程度量をあらわす副詞を研究対象に限定し，程度量表現語彙（程度量の副詞）の収集，および，日常比較的よく使われていると思われる程度量の副詞の程度量に関する意味づけの実態を把握し，最終的には評定尺度の構成にあたり程度量の副詞の適切な利用に関する研究へと進めてゆきたい。

このような研究目的のもとに研究が進められ，ここで報告される研究は次の三つに分かれている。

1. 従来の評定尺度の分析
2. 程度量表現語彙リストの作成
3. 程度量表現語彙の意味づけ

研究は必ずしもこの順に従っておこなわれたわけではないが，以下この順序に従って報告する。

Ⅲ　従来の評定尺度の分析

目　的

評定尺度法が心理学研究における有効な方法であり，実験や調査にとって欠くことのできないものであることは今さら述べるまでもない。しかし，ある研究目的に対して，信頼性や妥当性の高い評定尺度を構成するにはいかにすべきかという点や評定尺度における反応のメカニ

---

*　名古屋大学教育学研究科博士課程学生

(1)　近藤貞次他　質問紙法に関する基礎的研究—児童・生徒の人格表現的語彙の理解に関する基礎資料—名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科）1966.13. 3—42

ズムといった点についてはこれまでほとんど研究されていない。この論文においては評定尺度の構成法に関する研究の第一歩としてこれまでわが国において構成され使用されてきた評定尺度の分析を通して，(1)評定尺度としてどのような型の尺度があるか。(2)評定尺度に使用されている程度量表現語彙としてどのようなことばがあるか。(3)評定尺度の数量化の方法などの点について検討しようとするものである。

表 1　収集された評定尺度の原著

教育心理学研究	2(3)*, 6(1), 7(1), 11(3), 12(2), 14(2, 3)
心理学研究	34(2)
社会心理学研究	1(1), 3(1, 2), 4(1)
臨床心理学	2(4)
教育心理学大会論文集	6, 7, 8
日本心理学会論文集	27
名古屋大学教育学部紀要	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13
九州大学　教育学部紀要	3, 8(1, 2), 9(1), 10, 12(2)
立教大学　応用社会学研究	1, 4, 6, 7, 8
京都大学　教育学部研究集録	3, 10
神戸大学　教育学部研究集録	27, 32
東京教育大学　教育学部紀要	13
新しいリーダーシップ（三隅二不二著）ダイヤモンド社	

＊数字は巻，（　）内の数は号を示す。

評定尺度の収集

以上の研究目的にもとづき，心理学関係の学会誌，大学や諸研究機関発行の研究論文に収録されている評定尺度が今回の評定尺度の収集の対象とされた（表1）。なお，収集された評定尺度は評定用語として「非常に」「かなり」「やや」「あまり」「いつも」「ときどき」「たまに」などの程度量表現語彙が使用されているものに限られ，程度量表現語彙の使用されていない評定尺度は収集の対象から除かれている。それゆえに，2段階評定尺度，たとえば「はい―いいえ」とか「賛成―反対」および，3段階評定尺度のうち「はい―わからない―いいえ」「賛成―どちらともいえない―反対」は程度量表現語彙が使用されていないという理由により収集の対象から除かれた。その結果，収集された評定尺度は8段階評定尺度を除く，3段階評定尺度から10段階評定尺度におよぶ161個の評定尺度である。

表2　評定段階数と評定尺度用語別出現頻度

評定尺度段階数	評定尺度用語別出現頻度		
	現実の程度量をあらわすことばを用いた尺度数	頻度をあらわすことばを用いた尺度数	合　計
3	11	16	7
4	10	11	21
5	87	8	95
6	2	0	2
7	13	0	13
9	2	0	2
10	1	0	1
合　計	126	35	161

評定尺度の分析

収集された161個の評定尺度の分析結果を以下順を追って示す。

1．評定段階数及び評定尺度用語の分類

収集された評定尺度用語は事物の生起，出現の程度をあらわすことば，たとえば「いつも」「ときどき」「たまに」などの現実の時間的程度量の副詞（頻度の副詞とも呼ぶ）を用いた尺度と，「非常に」「かなり」「やや」などの現実の程度量の副詞を用いた評定尺度に大別される。表2は収集された評定尺度が評定段階数および評定用語別に分類された結果である。表2から明らかなように収集された評定尺度の半数以上の95尺度が5段階評定尺度であり，それにつづいて3段階，4段階評定尺度の数が多い。

評定尺度用語の分類別にみると，現実の程度量をあらわすことばを用いた評定尺度では7割以上が5段階評定

尺度であり，3，4，7段階評定尺度がほぼ同数づつみられる。1，2例ではあるが9段階，10段階評定尺度もみられる。現実の時間的程度量（頻度）の評定尺度では3段階評定尺度の数が最大で，段階数が増すにつれて評定尺度の数は少なくなり，6段階以上の評定尺度はみられない。

2．評定尺度の類型化

サンプル数の少ない6，9，10段階評定尺度を除く3，4，5，7段階の評定尺度の類型化が試みられた。評定尺度の段階数別の基本型とその「れい」およびその基本型に属する評定尺度の数が表3に示されている。

現実の程度量表現語彙を用いた評定尺度について考察すると，3段階評定尺度には三つの基本型がみられ，3個の判断カテゴリーのうち2個が肯定形の述語，たとえば「そうです」「はい」「大きい」などの述語を修飾し，残りの一つが否定形または反対の意味内容をもつ述語，たとえば「そうでない」「いいえ」「大きくない又

表3—1　程度量を問う評定尺度の型とその例（その1）

段階数	型名	評定尺度および評定尺度例	尺度数 現実の程度量尺度	尺度数 頻度尺度
3	3-1	A+ 非常に　B+ かなり　C- あまり	6	16
	3-2	A+ 非常に　B- たいして　C- ほとんど	2	0
	3-3	A+ 非常に　B+ まあ　C± ふつう	3	0
4	4-1	A+ いつも　B+ たいてい　C- たいてい　D- いつも	0	1
	4-2	A+ 非常に　B+ まあ　C- あまり　D- 全然	8	9
	4-3	A+ 非常に　B+ かなり　C+ 多少　D- 全然	2	1

*　以後の分析においても，6，9，10段階評定尺度は分析の対象から除かれている。

表3—2　程度量を問う評定尺度の型とその例（その2）

段階数	型名	評定尺度および評定尺度例	尺度数 現実の程度量尺度	尺度数 頻度尺度
5	5-1	A+ 非常に　B+ やや　C± 中間　B- やや　A- 非常に	29	0
	5-2	A+ 非常に　B+ どちらかといえば　C± 中間　B- どちらかといえば　D- やったく	12	0
	5-3	A+ 非常に　B+ かなり　C± 中間　D- あまり　A- 非常に	11	0
	5-4	A+ 非常に　B+ かなり　C± 中間　D- あまり　E- まったく	24	2
	5-5	A+ 非常に　B+ かなり　C+ まあ　D- あまり　E- まったく	7	6
	5-6	A+ 非常に　B+ かなり　C+ ふつう　D+ 少し　E- 全然	3	0
	5-7	A+ 非常に　B+ かなり　C+ 少しは　D± どちらでもよい　E- とくに…ない	1	0

表3—3 程度量を問う評定尺度の型とその例(その3)

段階数	型名	評定尺度および評定尺度例	尺度数 現実の程度量尺度	尺度数 頻度尺度
7	7-1	A+ B+ C+ D± C- B- A- 非常に / かなり / やや / 中間 / やや / かなり / 非常に	12	0
	7-2	A+ B+ C+ D± C- B- E- 非常に / 大体 / やや / 中間 / やや / 大体 / 全く	2	0

(注) * A, B…程度量表現語彙を意味し，同一の尺度についてみると文字が異なることは程度量表現語彙のことなることを意味する。

** 「＋」の記号は述語の形が肯定形，「－」は否定形または「＋」の述語の反対の意味をもつ述語のくることを示す。「±」は中間反応カテゴリーを示す。

は小さい」などの述語を修飾する副詞より構成されたA+B+C-型（3—1型)に収集された11個の評定尺度のうち9個が属す。4段階評定尺度では評定度用語が左右対称形のA+B+B-A-型（4—1型）は今回収集された評定尺度にはみられず，左半分が肯定型の述語を要求し，右半分が否定形又は反対の意味内容をもつ述語を要求するA+B+C-D-型（4—2型）が10例中8例みられる。5，7段階評定尺度では評定用語が右半分と左半分が全く同じA+B+C±B-A-型（5—1型）とA+B+C+D±C-B-A-型（7—1型）及び5段階評定尺度のA+B+C±D-E-型（5—4型)が多くみられた。とくに，5，7段階評定尺度においては，「どちらでもない」「ふつう」「中間」などの中位カテゴリーをもつものがそれぞれ70例中59例，13例中11例みられ，5，7段階評定尺度では判断カテゴリーの中央に中位カテゴリーを持つものが一般的な評定尺度形式といえよう。

次に現実の時間的程度量（頻度）表現語彙を用いた評定尺度についてみると，3段階評定尺度は全てA+B+C-型(3—1)型であり，4段階評定尺度ではA+B+C-D-型（4—2型）が5段階評定尺度ではA+B+C+D-E-型（5—5型）が最も多くこれらの型が各段階での一般的な型といよう。

3. 評定尺度語彙の分析

評定尺度に用いられてきた程度量表現語彙の分析が試みられた。収集された評定尺度に使用されている程度量表現語彙は現実の程度量表現語彙と現実の時間的程度量（頻度）表現語彙に大別される（表4，5）。なお，判断の中間をあらわす「ふつう」「どちらともいえない」「中間」などのことばは零点表現語彙としてまとめられている（表6）。

表から明らかなように現実の程度量表現語彙は121個の現実の程度量判断を求める評定尺度に52語も使用されており，多種多様の語彙が使われていることがうかがわれる。しかも，52語の現実の程度量表現語彙のうち，二つ以上の評定尺度で共通して使用されているものは半数にもみたない23語にすぎない。また，121個の評定尺度のうち10個以上の評定尺度に共通して使用されていることばは，「非常に」「かなり」「被修飾語のみ（たとえば，大きい，そう思う，はいなど）」「まったく」「やや」「全然」「どちらかといえば」「あまり」の8語にすぎない。現実の時間的程度（頻度）表現語彙についてみると，収集された35個の評定尺度に使用されていることばは29語である。その出現頻度からみると「ときどき」を最高に「ほとんど」「あまり」「いつも」「ときには」「まったく」の6語が使用される割合が高いことばといえよう。

評定尺度の段階数別に使用頻度の高い程度量表現用語をみると，3段階評定尺度では「非常に」「ときどき」「いつも」「ほとんど」が，4段階評定尺度では「非常に」「あまり」「全然」「ときどき」「まったく」が，5段階評定尺度では「非常に」「かなり」「あまり」「被修飾語のみ」「まったく」「どちらかといえば」「やや」「いつも」「ときには」「めったに」「ほとんど」が，7段階評定尺度では「非常に」「かなり」「やや」が比較的使用頻度の高いことばといえよう。

表4 程度量表現語彙（現実の程度量の副詞を中心とした語彙）の出現頻度

語彙 ＼ 段階数	3	4	5	7	全体
尺度数	11	10	87	13	121
1. 非常に	7	5	45	10	67
2. かなり	2	3	26	11	42
3. あまり	2	8	25	0	38
4. 被修飾語又は述語(肯定)*	1	3	32	0	36
5. やや	1	0	14	11	26
6. まったく	1	1	16	1	19
7. 全然	1	5	8	1	15
8. どちらかといえば	0	0	13	1	14
9. ほとんど	2	0	7	0	9
10. 被修飾語又は述語(否定)*	3	0	6	0	9

（表4つづき）

11. ま　あ	1	2	6	0	9
12. 大　変	0	0	8	0	8
13. おおいに	0	2	5	0	7
14. だいたい	0	1	5	1	7
15. とても	1	0	4	2	7
16. 少　し	2	1	3	0	6
17. きわめて	0	0	5	0	5
18. ある程度	0	0	2	0	2
19. いくらか	0	0	2	0	2
20. 少しも	0	0	2	0	2
21. さほど	0	0	2	0	2
22. 確かに	1	0	1	0	2
23. 多　少	1	1	0	0	2
24. 必ずしも	1	0	0	0	1
25. 大して	1	0	0	0	1
26. 多　分	1	0	0	0	1
27. 著しく	0	1	0	0	1
28. とくに	0	1	0	0	1
29. いくぶん	0	0	1	0	1
30. 必　ず	0	0	1	0	1
31. 決して	0	0	1	0	1
32. 完全に	0	0	1	0	1
33. 概して	0	0	1	0	1
34. これ以上ないほど	0	0	1	0	1
35. 少しだけ	0	0	1	0	1
36. 少しは	0	0	1	0	1
37. そんなに	0	0	1	0	1
38. 絶対に	0	0	1	0	1
39. 大	0	0	1	0	1
40. 断　然	0	0	1	0	1
41. 強　い	0	0	1	0	1
42. 特に…でない	0	0	1	0	1
43. ちょっと	0	0	1	0	1
44. とはいえない	0	0	1	0	1
45. ちょっと	0	0	1	0	1
46. 万　事	0	0	1	0	1
47. ほんのわずか	0	0	1	0	1
48. まさに	0	0	1	0	1
49. もっと	0	0	1	0	1
50. 弱　い	0	0	1	0	1
51. わりあい	0	0	1	0	1
52. まあまあ	0	0	0	1	1

＊　大きい，小さい，はい，いいえなどの程度量副詞を伴なわない反応カテゴリー用語を意味する。

表5　程度量表現語彙（頻度の副詞）の出現頻度

語彙 ＼ 段階数	3	4	5	全体
尺度数	16	11	8	35
1. ときどき	9	8	1	18
2. ほとんど	5	4	7	16
3. いつも	5	3	5	15
4. あまり	3	6	3	12
5. ときには	4	0	5	9
6. まったく	0	7	1	8
7. しばしば	1	2	2	5
8. 全　然	4	1	0	5
9. よ　く	3	2	0	5
10. めったに	0	0	5	5
11. かなりしばしば	0	2	2	4
12. …しない	4	0	0	4
13. いつでも	0	0	3	3
14. 大　体	1	0	2	3
15. 少しは	0	3	0	3
16. たびたび	3	0	0	3
17. たいてい	0	1	1	2
18. ふつう	0	0	2	2
19. 多　い	1	0	0	1
20. 決って	1	0	0	1
21. …する	1	0	0	1
22. だいたいいつも	1	0	0	1
23. かりに	1	0	0	1
24. 常　に	0	1	0	1
25. かなり	0	0	1	1
26. 少しも	0	0	1	1
27. たまに	0	0	1	1
28. ほとんどいつも	1	0	0	1

表6　程度量表現語彙（零点表現語彙）の出現頻度

語彙 ＼ 段階数	3	5	7	合計
1. ふつう	1	28	1	30
2. どちらともいえない	0	11	3	14
3. どちらでもない	0	8	5	13
4. わからない	0	3	2	5
5. 中　間	0	1	3	4
6. 何ともいえない	1	0	2	3
7. どうともいえない	0	2	0	2
8. 何とも思わない	2	2	0	2
9. よくわからない	0	2	0	2
10. 両者あいなかばする	0	2	0	2

11. わからない	1	0	0	1
12. 中位的	0	1	0	1
13. どちらも同じくらい	0	1	0	1
14. どちらともはっきりしない	0	1	0	1
15. どちらとも思わない	0	1	0	1
16. 大差ない	0	1	0	1
17. 何とも感じない	0	1	0	1
18. 何もいわない	0	1	0	1
19. 何とも決めかねる	0	1	0	1
20. あってもなくてもよい	0	1	0	1
21. まあまあまあというところ	0	1	0	1
22. そうであるときもそうでないときもある	0	1	0	1
23. 無関心	0	1	0	1

4. 評定尺度の分類

評定尺度には多種多様の程度量表現語彙が使用されていることがこれまでの分析で明らかにされた。ここでは程度量表現語彙のいかなる組合せによって評定尺度が実際に構成されてきたかについての検討を試みることにする。先に類型化された評定尺度の基本型別に収集された評定尺度が分類された（表7－1～表7－6）。なお，これらの表においては中間反応，たとえば「中間」「どちらでもない」「ふつう」などは全て「どちらともいえない」として便宜的にまとめられている。

表によれば，156個の評定尺度のうち，評定段階数，評定用語とも全く一致するものは7段階評定尺度の「1.非常に　2.かなり　3.やや　4.どちらともいえない　5.やや　6.かなり　7.非常に」の7例を筆頭に5段階評定尺度の「1.非常に　2.かなり　3.どちらともいえない　4.かなり　5.非常に」，「1.非常に　2.やや　3.どちらともいえない　4.やや　5.非常に」，「1.非常に　2.被修飾語のみ(A)　3.どちらともいえない　4.被修飾語のみ(B)　5.非常に」，「1.非常に　2.どちらかといえば　3.どちらともいえない　4.どちらかといえば　5.まったく」の3ないし4例が多い方で，他のほとんどすべての評定尺度はほとんど1例づつしかみられない。そのため，収集された144個の評定尺度の種類は全部で133種類になる。

評定尺度用語として非常に多種類の程度量表現語彙が使用され，それらの組合せによって構成される評定尺度の種類もまた千差万別で，評定尺度の種類はほぼ収集された評定尺度の数に等しいことが明らかにされた。このことは好意的にみれば，実験や調査の実施にあたり，心理学研究者達はその研究目的に最もふさわしい評定尺度

表7－1　評定尺の基本型および評定尺度の種類*

尺度型番号	評定尺度の基本型および評定尺度の種類			尺度数
3－1	A+	B+	C-	22
001	非常に	(A)	(Aでない)	1
002	非常に	やや	(Aでない)	1
003	非常に	多少	あまり	1
004	非常に	かなり	あまり	1
005	非常に	少し	(Aでない)	1
006	かなり	少し	全然	1
007	いつも	だいたいいつも	(Aでない)	1
008	いつも	ときどき	(Aでない)	1
009	いつも	ときどき	全然	1
010	いつも	ときどき	ほとんど	1
011	いつも	大体	あまり	1
012	よく	ときどき	ほとんど	1
013	よく	ときどき	あまり	1
014	よく	わりに	あまり	1
015	たびたび	ときどき	ほとんど	1
016	たびたび	ときには	ほとんど	1
017	たびたび	ときには	全然	1
018	しばしば	ときには	全然	1
019	決して	ときには	全然	1
020	多い	ときどき	(Aでない)	1
021	する	ときどき	(Aでない)	1
022	ほとんどいつも	ときどき	ほとんど	1
3－2	A+	B-	C-	2
023	非常に	たいして	ほとんど	1
024	まったく	必ずしも	ほとんど	1
3－3	A+	B+	C-	3
025	非常に	まあ	ふつう	1
026	とても	(A)	何ともいえない	1
027	確かに	多分	わからない	1

(注)　A，B，C…は程度量をあらわすことばを「＋」は肯定形の被修飾語（述語）を，「－」はその否定を「±」は中間反応を意味する。
(A)，(B)は被修飾語，たとえば，大きい，そう思うなどが使用されていることを示す。(B)は(A)とその意味内容が反対の被修飾語を意味する。たとえば(A)が「大きい」ならば(B)は「小さい」という被修飾語がくる。

*　程度量をあらわすことばの次に(A)または(B)の被修飾語がくるが，表においては被修飾語が省略されている。

表7－2　評定尺度の基本型および評定尺度の種類

尺度型番号	評定尺度の基本型および評定尺度の種類				尺度数
4 － 1	A+	B+	B−	A−	1
0 2 8	いつも	たいてい	たいてい	いつも	1
4 － 2	A+	B+	C−	D−	17
0 2 9	非常に	まあ	あまり	全然	2
0 3 0	非常に	いくぶん	とくに	あまり	1
0 3 1	非常に	少し	あまり	まったく	1
0 3 2	大いに	かなり	あまり	全然	1
0 3 3	大いに	大体	あまり	全然	1
0 3 4	(A)	大体	あまり	(B)	1
0 3 5	ほんとうに	まあ	あまり	全然	1
0 3 6	いつも	ときどき	ほとんど	まっとく	1
0 3 7	いつも	ときどき	あまり	少しも	1
0 3 8	かなりしばしば	ときどき	あまり	全然	1
0 3 9	かなりしばしば	ときどき	あまり	ほとんど	1
0 4 0	しばしば	少し	あまり	まったく	1
0 4 1	しばしば	少し	ほとんど	まったく	1
0 4 2	よく	ときどき	ほとんど	まったく	1
0 4 3	常に	ときどき	ほとんど	まったく	1
0 4 4	必ず	ときどき	あまり	まったく	1
4 － 3	A+	B+	C+	D−	3
0 4 5	非常に	かなり	多少	全然	1
0 4 6	著しく	かなり	少し	(B)	1
0 4 7	よく	ときどき	少しは	まったく	1

表7－3　評定尺度の基本型および評定尺度の種類（その1）

尺度型番号	評定尺度の基本型および評定尺度の種類					尺度数
5 － 1	A+	B+	C±*	B−	A−	29
0 4 8	非常に	やや		やや	非常に	3
0 4 9	非常に	かなり		かなり	非常に	4
0 5 0	非常に	(A)		(B)	非常に	3
0 5 1	非常に	どちらかといえば		どちらかといえば	非常に	1
0 5 2	とても	やや		やや	とても	1
0 5 3	とても	なんとなく		なんとなく	とても	1
0 5 4	とても	(A)		(B)	とても	1
0 5 5	大へん	いくらか		いくらか	大へん	2
0 5 6	大へん	(A)		(A)	大へん	1
0 5 7	(A)	たいてい		たいてい	(B)	1
0 5 8	(A)	どちらかといえば		どちらかといえば	(B)	2

表7－4　評定尺度の基本型および評定尺度の種類（その2）

尺度型番号	評定尺度の基本型および評定尺度の種類					尺度数
0 5 9	断然	やや		やや	断然	1
0 6 0	きわめて	(A)		(B)	きわめて	1
0 6 1	まったく	どちらかといえば		どちらかといえば	まったく	1
0 6 2	殆んど	どちらかといえば		どちらかといえば	ほとんど	1
0 6 3	かなり	やや		やや	かなり	1
0 6 4	もっと	どちらかといえばもうすこし		どちらかといえばもうすこし	もっと	1
0 6 5	大いに	(A)		(B)	大いに	1
0 6 6	大	(A)		(B)	大	1
0 6 7	強い	弱い		弱い	強い	1
5 — 2	A_+	B_+	$C_{\pm}$*	B_-	D_-	12
0 6 8	非常に	どちらかといえば		どちらかといえば	まったく	3
0 6 9	非常に	(A)		(B)	全然	2
0 7 0	きわめて	(A)		(B)	まったく	2
0 7 1	大変	(A)		(B)	非常に	1
0 7 2	完全に	どちらかといえば		どちらかといえば	まったく	1
0 7 3	確かに	(A)		(B)	全然	1
0 7 4	まさに	概して		概して	決して	1
0 7 5	大いに	どちらかといえば		どちらかといえば	(Aでない)	1
5 — 3	A_+	B	$C_{\pm}$	D_-	A_-	11
0 7 6	非常に	かなり		あまり	非常に	1
0 7 7	非常に	かなり		少し	非常に	1
0 7 8	非常に	かなり		やや	非常に	2
0 7 9	非常に	だいたい		あまり	非常に	1
0 8 0	非常に	(A)		やや	非常に	1
0 8 1	非常に	まあ		あまり	非常に	1
0 8 2	(A)	わりあい		あまり	(B)	1
0 8 3	(A)	大体		あまり	(Aでない)	1
0 8 4	(A)	まあ		あまり	(B)	1
0 8 5	まったく	だいたい		あまり	まったく	1
5 — 4	A_+	B_+	$C_{\pm}$	D_-	E_-	26
0 8 6	非常に	かなり		あまり	まったく	2
0 8 7	非常に	かなり		あまり	ほとんど	1
0 8 8	非常に	かなり		やや	きわめて	1
0 8 9	非常に	まあ		あまり	ぜんぜん	1
0 9 0	非常に	まあ		(B)	絶対に	1
0 9 1	非常に	まあ		(Aでない)	絶対に(Aでない)	1
0 9 2	非常に	(A)		あまり	(Aでない)	2
0 9 3	非常に	(A)		やや	(B)	1

* $C_{\pm}$の中間反応カテゴリー用語として「どちらともいえない」，「中間」，「ふつう」などのことばが使用されているが表では省略されている。

表7－5　評定尺度の基本型および評定尺度の種類（その3）

尺度型番号	評定尺度の基本型および評定尺度の種類					尺度数
094	非常に	(A)		ちょっと	万事	1
095	非常に	(A)		(Aとはいえない)	(Aでない)	1
096	非常に	やや		かなり	たいへん	1
097	非常に	少し		そんなに	全く	1
098	(A)	かなり		あまり	まったく	1
099	(A)	どちらかといえば		あまり	ほとんど	1
100	(A)	やや		あまり	まったく	1
101	大いに	どちらかといえば		あまり	まったく	1
102	大いに	だいだい		あまり	ぜんぜん	1
103	大いに	かなり		あまり	ぜんぜん	1
104	まったく	だいたい		あまり	(B)	1
105	かならず	かなり		あまり	ほとんど	1
106	大変	かなり		あまり	少しも	1
107	大変	かなり		あまり	全然	1
108	いつも	大体	ふつう	あまり	ほとんど	1
109	いつも	大体	ふつう	あまり	まったく	1
5－5	A+	B+	C+	D−	E−	13
110	非常に	(A)	どちらかといえば	やや	(B)	1
111	非常に	(A)	どちらかといえば	ちょっと	万事	1
112	非常に	(A)	どちらかといえば	(Aとはいえない)	(Aでない)	1
113	非常に	かなり	ある程度	あまり	ほとんど	1
114	非常に	かなり	まあ	あまり	ほとんど	1
115	非常に	かなり	(A)	あまり	全然	1
116	きわめて	かなり	いくぶん	さほど	全然	1
117	いつも	かなりしばしば	ときには	めったに	ほとんど	1
118	いつも	かなり	ときには	めったに	ほとんど	1
119	いつも	しばしば	ときには	めったに	ほとんど	1
120	いつでも	たいてい	ときには	めったに	ほとんど	1
121	いつでも	かなりしばしば	ときには	あまり	ほとんど	1
122	しばしば	ときどき	たまに	めったに	ほとんど	1
5－6	A+	B+	C−	D+	E−	3
123	これ以上なりようがないほど	非常に	(A)	やや	少しも	1
124	非常に	かなり	普通に	少し	全然	1
125	とても	かなり	少しだけ	ほんのわずか	ほとんど	1
5－7	A+	B+	C+	D±	E−	1
126	非常に	かなり	少しは	どちらでもよい	とくに…ない	1

を構成しようと努力してきた結果多種多様な評定尺度が作られる結果となったとも考えられる。また，別のみかたをすれば実験や調査結果の信頼性や妥当性をも左右する評定尺度の重要性についての認識不足からあまりにも安易な気持で評定尺度を構成してきたのではないかとも考えられる。

表7－6　評定尺度の基本型および評定尺度の種類

尺度型番号	評定尺度の基本型および評定尺度の種類							尺度数
7－1	A_+	B_+	C_+	$D_{\pm}$*	C_-	B_-	A_-	12
127	非常に	かなり	やや		やや	かなり	非常に	7
128	非常に	大体	やや		やや	大体	非常に	1
129	非常に	大体	どちらかといえば		どちらかといえば	大体	非常に	1
130	非常に	かなり	まあまあ		まあまあ	かなり	非常に	1
131	とても	かなり	やや		やや	かなり	とても	2
7－2	A_+	B_+	C_+	$D_{\pm}$	C_-	B_-	E_-	2
132	非常に	大体	やや		やや	大体	全く	1
133	大変	かなり	やや		やや	かなり	全然	1

*　$D_{\pm}$は中間反応カテゴリー，たとえば「どちらともいえない」「わからない」「中間」などで，表中においては省略されている。

5.　評定尺度の数量化

評定尺度を用いた実験や調査結果としての資料の信頼性や妥当性を高いものにするためには，いかなる程度量表現語彙の組合せでもって評定尺度を構成するかという問題とともに構成された評定尺度に対して適切な数量化がなされなければならないであろう。先に述べたように心理学研究者達はこれまでに非常に多種類の評定尺度を構成し使用してきたわけであるが，その数量化はどのような方法でもってなされたかという点についての検討が試みられた。

その結果によると，後に述べる白石らの研究を除き，構成された評定尺度は隣りあった反応カテゴリー間の程度量の差は一定であるという等間隔尺度とみなし，数量化されている。このような数量化が適切であるか否かについての検討，たとえば，採用された程度量表現語彙の意味する程度量の差が等しいか否かという検討がなされなければならないのであろうが，そのような構成された評定尺度に対する数量化の妥当性についての検討を試みている研究はほとんどない。

白石らは評定尺度の数量化に際して次のような方法を用いている[1)2)]。まず，質問に関連した指標に関してリッカート法により数量化し，その得点にもとづきG－P群に分け，G－P群に有意に関連した項目をとりあげ，分散一定の条件のもとでG－P群の差を最大にする方法でもって各反応カテゴリーを数量化している。その結果によれば，両親との関連に関する質問に対する4つの反応カテゴリー「1.大抵相談する　2.時々する　3.あまり相談しない　4.したことなし」に対してそれぞれ1.0，－0.4　－1.4，－2.0の数値を与えている。このことからもこれらの4つの反応カテゴリーに対して単純に1，2，3，4の数量化をすることは危険であることがわかる。このような危険を避け，構成された評定尺度に対して妥当な数量化をするためにも，いかなる程度量表現語彙を使用すべきか，その数量化はいかにすべきかについての検討がなされなければならないであろう。換言すれば，評定尺度の構成にあたり，採用された程度量表現語彙が何故に適切であり，その反応カテゴリーに与えられた数値がいかなる根拠にもとづきなされたかといった点が，個々の評定尺度毎に明らかにされる必要がある。

(1)　白石一誠他　教育と社会との構造論的研究（第三報告）名古屋大学教育学部紀　1958，4，32－40

(2)　白石一誠他　教育と社会との構造的研究（第二報告その2）名古屋大学教育学部紀要　1958，4，23－31

要　約

教育心理学研究等の心理学関係の学会誌や各研究機関発行の研究論文集に収録されている161個の評定尺度が収集され，そのうちの156個の評定尺度についての分析と考察が試みられた。その結果によれば，従来わが国で構成され使用されてきた評定尺度に使用されている程度量表現語彙は非常に豊富であることが明らかにされた。また，評定尺度用語としてしばしば使用されていることばは「非常に」「かなり」「あまり」「ときどき」などのごく限られたことばに過ぎないこともわかった。

収集された評定尺度はある限られた評定尺度の基本型に分類されたわけであるが，それらの基本型に分類される評定尺度の種類は133種類にも及び，評定尺度の段階数とそこに用いられていることばが全く一致している例はごく稀れで，7段階評定尺度と5段階評定尺度にその

例がわずかにみられるにすぎなかった。

このように非常に多種類の評定尺度が構成され使用されてきたわけであるが，このような評定尺度はほとんど全てが隣り合った判断カテゴリー間の差が一定であるという仮定のもとに数量化され，そのような数量化の妥当性についての検討が試みられることはほとんどなかったように思われる。以上の評定尺度の分析とその考察からみても評定尺度法をより有効な心理学研究の測定用具として完成するために程度量表現語彙の意味づけの研究や評定尺度に対する反応のメカニズムなどの問題についての研究が今後進められなければならないであろう。

Ⅳ　程度量表現語彙リスト

目　的

評定尺度の構成にあたり，まず，評定尺度用語としていかなる程度量表現語彙を判断カテゴリー用語として用いるべきかが問題になる。ここでは評定尺度用語としての程度量表現語彙，とくに，程度量の副詞のリストの作成を目的とする。

程度量表現語彙の収集の範囲

被験者の判断を求めるにあたり「非常に」「かなり」「やや」「いつも」「ときどき」などの程度量をあらわす副詞が評定尺度の判断カテゴリー用語として使用されていることは先の(Ⅲ)で報告した。これらの程度量の副詞はある対象や事象の意味がどの程度であるかをくわしくすることばである。今回の程度量の副詞のリスト作成にあたり収集された副詞は西尾・岩淵編「岩波国語辞典（昭42年版）」，国文法書に収録されている副詞，わが国で作成された評定尺度に使用されていることば及び，小学生・中学生・高校生**を対象とした程度量副詞についての調査の結果得られた程度量の副詞がリストに収められている。なお，収集された程度量の副詞は現代語を中心に収集され，古語は収集の範囲から一応除かれているが，現在も一般に使用されていると筆者に判定されたことばは収録されている。

程度量副詞の分類

程度量をあらわす副詞の分類は国文法研究者によって多少異なるようであるが，ここでは森重敏氏*の分類基準を参考にして分類が試みられている。森重は程度量副詞をいわゆる程度の副詞と時の副詞に大別している。程度量の副詞は更に次のように下位分化される。その一つは現実の程度を量るもので，最高度あるいは度外極度の意味をもつ「最も」「とびきり」「あまりに」，比較的高度のあるいは極度の「ずっと」「ひときわ」「きわめて」，高度の「はなはだしく」「すこぶる」「大いに」「とても」「大変（層）」「非常に」，相当度の「大分」「なかなか」「かなり」「相当」，低度の「やや」「いくらか」「いささか」「すこし」などがここに属すことばである。次は，実現の程度量をはかる副詞で，極度の意味をもつ「必ず」「きっと」「てっきり」「断然」，高度の「恐らく」「確かに」「大方」「大低(概)」「多分」，相当度の「ややもすれば」「ともすれば」，低度の「あるいは」「ひょっとして」「万一」「めったに」，零度の「少しも」「ちっとも」「まったく」が実現の程度量副詞に属する。その他にも，「ようやく」「おおいに」などの連続的な高度化をはかるもの，あるいは，対象を概略・明確な量に限度するもので「すこし」「ちょっと」「大分」「少々」「多少」などの分類基準がある。

次に時の副詞は，「常に」「たえず」「始終」「しばしば」「ちょいちょい」のように現実の程度量副詞に対応する時間的程度量，いわゆる頻度をはかる副詞と，「すぐに」「まもなく」「いましがた」など実現の程度量副詞に対応して心理的時間の現在を中心として実現の程度量をはかる副詞，その他，時間的に順序的な進行性をもつもの，時間そのものの概略・明確な限定をなす副詞に下位分化することができるとしている。

本論文にあっては評定尺度用の程度量副詞のリストの作成を目的としており以上の分類を全て採用する必要はない。従来の評定尺度に用いられてきた程度量副詞と関係の深い分類基準として次の四つの分類基準をここではとりあげて収集されたことばを分類することにする。その分類基準とは，「現実程度量の副詞」「実現程度量の副詞」「時間的程度量（頻度）の副詞」「心理的時間の現在を中心とした実現の程度量をはかる副詞（心理的時間の副詞）」であり，この分類カテゴリーに属すると判定された程度量の副詞が表8に示されている。

ここに報告した程度量副詞の収集，および，その分類カテゴリーの設定やその分類が十分に適切であるとは必ずしもいえないかもしれないが，評定尺度用語としての程度量副詞の収集・分類という当面の目標は一応満されているものと思われる。

---

*　森重敏　日本文法通論　風間書房　昭和39年　246—252

**　程度量表現語彙（副詞）の収集にあたり，名古屋市川原小学校，椙山学園中学校，椙山学園高等学校のご協力をいただき厚く感謝いたします。

表8　　程度量の副詞リスト

現実の程度量の副詞		実現の程度量の副詞	現実の時間的程度量(頻度)の副詞	心理的時間の程度量副詞
*1 あまり	46 ちょっぴり	1 あくまで	1 あまり	*1 いましがた
2 ある程度	47 どえらく	2 あらかた	*2 いつでも	*2 い ま
3 いくぶん	48 特別に	*3 疑いなく	*3 いつも	*3 さっき
4 いささか	49 特 に	*4 大 方	*4 おりおり	*4 さきほど
5 いくらか	*50 どちらかといえば	*5 おおむね	5 かなりしばしば	*5 すでに
6 著しく	51 とてつもなく	*6 おおよそ	6 決して	6 せんこく
7 一 番	52 とっても	*7 恐らく	*7 しじゅう	*7 たったいま
8 いやに	*53 とても	8 確実に	*8 しばしば	*8 とうに
9 うんと	54 とびきり	*9 必 ず	*9 しょっちゅう	*9 も う
10 えらく	55 なかなか	10 必ずや	*10 しげしげと	10 さきごろ
11 大いに	56 ばかに	11 必ずしも	11 少しも	11 せんど
12 おそろしく	57 はなはだ	*12 完全に	12 少 し	(以上過去の副詞)
13 概して	58 比較的	*13 きっと	13 少しは	
*14 かなり	*59 非常に	14 きまって	14 全 然	*12 いまに
15 極めて	60 ひときわ	15 九分九厘	*15 たえず	*13 いまにも
16 極端に	61 ひどく	16 決して	16 だいたいいつも	*14 すぐに
17 ご く	62 ま あ	*17 ことによると	*17 たびたび	15 そうばん
18 ごく少し	63 まあまあ	18 十中八九	*18 たまに	*16 そのうちに
19 これ以上ないほど	64 ほんの少し	19 少なくとも	19 たまにしか	*17 ただちに
20 最高に	65 ほんのちょっと	*20 絶対に	*20 たまさか	*18 ちかじか
21 さほど	66 ほんのわずか	*21 たいがい	*21 たまたま	*19 とおからず
22 じつに	67 まったく	22 大 体	*22 ちょいちょい	*20 ほどなく
23 少 々	68 めっぽう	*23 大 抵	23 ちょくちょく	*21 まもなく
24 ずいぶん	69 ちめゃくちゃに	*24 確かに	24 ちょこちょこ	*22 やがて
*25 少 し	20 最 も	*25 多 分	25 ちょっと	(以上未来の副詞)
26 少しだけ	71 ものすごく	26 断呼として	26 ちょっとも	
27 少しは	72 やけに	*27 断じて	27 常 に	
*28 少しも	*73 や や	*28 断 然	*28 時おり	
*29 すごく	74 わりあい	29 ちかって	*29 時たま	
30 すごぶる	75 わりと	30 どうかすると	30 時たましか	
31 ずっと	*76 わりに	31 当 然	*31 時 々	
32 すばらしく	*77 わずかに	*32 ひょっとして	32 時々しか	
*33 全 然	78 わりかた	33 ほとんど	*33 ひっきりなしに	
34 そうとう		*34 ほ ぼ	*34 ひんぱんに	
35 そんなに		35 本当に	35 ほとんどいつも	
36 大 層		36 ま あ	36 全 く	
37 たいして		*37 まあまあ	*37 稀れに	
*38 だいぶ		38 ま ず	38 まるっきり	
39 だいぶん		*39 まずまず	39 めったに	
*40 大 変		40 まちがいなく	*40 よ く	
*41 多 少		*41 もしかしたら	41 わりあい	
42 段違いに		42 もしかすると	42 ろくに	
43 ちょっと		43 もちろん	43 わりに	
44 ちょっとだけ		*44 ややもすると		
45 ちょぴっと		45 ゆめにも		

* 印は「V程度量表現語彙の意味づけ」の調査に用いられた副詞である。

V　程度量表現語彙の意味づけの調査

目　的

程度量副詞のリストが作成されたわけであるが，これらの程度量副詞を評定尺度における判断カテゴリー用語として適切な使用を可能にするためには個々の程度量副詞の意味する程度量や程度量副詞相互間の程度量の差異などが明らかにされなければならないであろう。また，その関係は被験者の発達水準によっていかに異なるかといった程度量副詞の意味づけに関する発達的な面からの検討も必要であろう。ここでは前章で報告した程度量表現語彙リストに収録されている程度量副詞の意味する程度量の相対的な関係を明らかにし，更に，程度量副詞の程度量に関する尺度値の決定を目的とする。程度量副詞相互間の程度量に関する意味づけの分化が被験者の発達水準によって異なるか，また，評定尺度の構成に際していかなる程度量副詞を使用すべきかについての考察もあわせて試みたい。

方　法

1．調査対象

程度量副詞の意味づけ，すなわち，程度量副詞の程度量に関する意味づけが被験者の発達水準によっていかに異なるか，また，程度量副詞相互間の意味分化が被験者の発達水準の違いによっていかに異なるかなど程度量副詞間の意味分化と被験者の発達水準との関係を明らかにしようとの狙いのもとに発達水準を異にする4群が調査対象として選ばれた。すなわち，小学5年生を対象とする小学生群，中学2年生を対象とする中学生群，高校生群*および成人群である。その内訳は次の通りである**。

A．小学生群：名古屋市内の御器所小，弥富小，汐路小，桜小，呼続小，笠寺小，宝小の7校，5年生男女児童あわせて約1,000名

B．中学生群：名古屋市内の昭和橋中，荻山中，川名中，桜田中の4校，2年生男女生徒あわせて約750名

C．高校生群：岡崎市内の岡崎女子高等学校1年および3年生，名古屋市内の大同工業高校2年男子，合計約450名

D．成人群：昭和42年度社会主事講習会受講者（名古屋大学教育学部にて開催）男女あわせて98名

2．調査票

程度量副詞リスト（表8）に収録された程度量副詞相互間の程度量に関する意味づけの差異を明らかにし，更に，程度量副詞の程度量に関する尺度値を決定するにあたり一対比較法が用いられた。各分類カテゴリー別に全ての程度量副詞相互間の程度量に関する一対比較判断を求めることが望ましいわけであるが，一対比較対の数が膨大となり，実際上の問題としてその実施は不可能である。そこで本研究においては，日常生活において比較的よく使用されており，児童・生徒もよく理解し，また，評定尺度用語として比較的よく使用されていると筆者によって判断された程度量副詞相互間の程度量に関する判断を一対比較法によって求めた。表8の＊印の付されている程度量副詞が今回の調査に用いられた程度量副詞である。

調査は4つに分かれており，各調査の質問形式および回答形式は次の通りである。

調査Ⅰ　現実の程度量副詞についての調査で，質問形式は次の通りである。

A．かなり大きい

B．非常に大きい

A，Bのいずれの表現が「より大きい」ことをあらわす表現であるかその判断を求めるものである。選ばれた刺激語は18語，一対比較対の数は153対，調査票は2枚，調査対象は小学生群（5年生），中学生群（2年生），高校生群（1年生，2年生）の3群であった。

調査Ⅲ　実現の程度量副詞についての調査で，その形式は次の通りである。

A．きっと雨でしょう

B．ことによると雨でしょう

A，Bいずれの表現が「雨でなるでしょう」という気持（確信）をより強く表現しているかについて判断を求める。刺激語は22語，一対比較対は231対，調査票3枚，調査対象は小学生群（5年生），高校生群（3年生）および成人群の3群であった*。

調査Ⅲ　現実の時間的程度量（頻度）の副詞についての調査で，その形式は次の通りである。

A．いつもする

---

*　高校生群の調査対象学年は調査の都合上，各調査により対象学年が異なる。

**　ご協力に対し厚く感謝の意を表します。

B．ときどきする

A，Bいずれの表現が「より多くする」表現であるか，その判断が求められた。刺激語は20語一対比較対は190個，調査票は3枚，調査対象は小学生群（5年生），中学生群（2年生），高校生群（3年生）および成人群であった。

調査Ⅳ　心理的時間の程度量副詞についての調査で，その質問形式は次の通りである。

1．心理的過去をあらわす程度量副詞についての質問形式

A．さきほど終りました

B．いま終りました

2．心理的未来をあらわす程度量副詞についての質問形式

A．まもなく始まるでしょう

B．いまに始まるでしょう

A，Bいずれが「より現在に近い」ことを表現するかについて判断が求められた。

心理的過去の副詞9語，心理的未来の副詞10語一対比較対の数はそれぞれ36語と45語，調査票は両者をあわせて一枚，調査対象は小学生群（5年生），中学生群（2年生），高生群（3年生），成人群であった。

3．調査の実施手続

調査の実施にあたり，小学生は1時間につき調査票1枚ないし2枚（一対比較対の数は75から150），中学生は2枚ないし3枚，高校生は3枚の割合で集団的に実施された。なお，成人の調査にあたっては，調査票配布2日ないし3日後に回収された。なお，中学生群，高校生群および成人群においては，同一の調査に含まれる全ての比較対についての判断が一人の被験者から得られたのであるが，小学生群を被験者とした調査Ⅱにおいては，調査票を二つに分け，二つの被験者群にいずれか一方の調査票を与え，その判断が求められた。具体的な調査票の配布の方法は次の通りである。調査Ⅱの調査票3枚のうち1枚をクラスの半数に，残りの2枚を他の半数に配布[**]された。その結果である判断の比率行列（表10—1）に示された標本数は調査Ⅱの全ての一対比転対(231対）の判断回数の最も少なかった比較対の判断回数（人数）である。[***]

調査の実施は名古屋大学教育学部教育心理学専攻生および大学院生によっておこなわれた。調査の実施は昭和42年7月から11月にかけておこなわれた。

4．結果の整理

程度量副詞のリスト別に程度量に関する判断の比率行列が群別に求められた（表9—1から表13）。この比率行列にみられる数値は，比率行列中の行に書かれた程度量副詞のあらわす程度量が列の副詞の程度量よりも強い（現在を中心とした心理的時間の程度量副詞において心理的な現在により近い）と判断された比率（%）である。たとえば，表10—1の左上隅の数値69.6（%）は「絶対に」が「完全に」よりも実現の程度がより強いと判断した被験者が全体の69.6（%）いたことを示している。なお，判断の比率行列中の太文字で示されている数値は，カイ自乗を利用した比率の検定の結果その数値に対応する行と列の程度量副詞間の程度量の差についての一対比較判断の結果に5%の危険率で統計的な有意差が認められないことを意味している。たとえば，実現の程度量副詞に関する成人群の一対比較判断結果である比率行列（表10—3）についてみると，「完全に」は「必ず」よりも実現の程度が強いと60.5（%）のものが判断しているが，「完全に」が「必ず」よりも実現の程度が強いことばであると結論するためには5%以上の危険が伴なうということを意味している。また，各表の程度量副詞の配列にあたって程度量副詞の意味する程度量が強いことばの番号が小さくなるよう考慮されている。

判断の比率行列をもとに程度量副詞の尺度値が求められた(表15～表16)。[****] 尺度値の計算にあたり判断の比率行列中に非常に極端な比率がある場合には，それから導き出される尺度化にはいくぶん危険があるといわれている。

そこで本論文においては表9—3を除き，判断の比率をZの値に変換する際に97.7%以上および2.3%以下の比率から生ずる+2.0あるいは−2.0以上の極端なZの値が生ずる場合には更宜的に±2.0をZ値として与えた。また，表9—3にもとづく尺度化に際しては比率97.7(%)

---

*　都合により中学生群の資料は得られなかった。

**　この際，各群の男女比率が半々になるよう配慮された。

***　処理上問題点があるが，あとにのべる程度量副詞の尺度化にあたり，他の調査と同じ方法で処理されている。

****　J．P．ギルフォード著　秋重監訳「精神測定法」（培風館，昭和34年）中の一対比較法（P189～218）における「ケースV」を仮定して尺度化が試みられた。

以上および2.3％以下の値が多数存在するため，「1.非常に大きい」から「8.（大きい）」までの8語，「8.（大きい）」から「16.あまり（大きくない）」までの9語および，「16.あまり（大きくない）」から「18.全然（大きくない）」までの3群に分けて尺度化が試みられている。

結果の考察

各々の調査に用いられた程度量副詞相互間の意味づけの分化程度が，被験者の発達水準の違いによっていかに異なるかといった点について考察する。

1．判断の比率行列の考察

1・1　現実の程度量副詞（調査Ⅰ）

表（表9－1～表9－3）からうかがえるように，小学生群，中学生群，高校生群へと発達水準が高くなるに従い判断の比率は0（％）または100(％）に近ずく傾向がうかがえ，一対比較された二つの副詞間の意味の差の弁別がつかない比率50（％）に近い値が減少している。全般的にみて調査Ⅰに用いられた現実の程度量副詞相互間の意味づけの弁別の程度は他の調査に用いられた程度量副詞相互間の意味づけの弁別力よりも高い。全被験者群を通して程度量に関する意味づけの差異がはっきりしないことばとしては，「あまり（大きくない）」と「どちらかといえば（大きい）」，「少し（大きい）」と「やや（大きい）」，「わりに（大きい）」と「(大きい)」があり，これらのことば間の意味の差異はないまたは意味の区別ができないといえよう。

表9－1　現実の程度量副詞の判断比率行列（小学生）＊　（小学5年生サンプル数 284人）

	1 非常に	2 すごく	3 たいへん	4 とても	5 かなり	6 だいぶ	7 わりに	8 (大きい)	9 やや	10 多少	11 少し	12 わずかに	13 どちらかといえば	14 あまり	15 どちらともいえない	16 少しも	17 全然
1 非常に		63.0	89.4	86.3	92.6	91.2	94.7	94.4	95.1	95.8	94.7	92.6	92.3	95.8	93.7	97.2	96.5
2 すごく	37.0		89.4	92.6	92.6	94.0	94.4	96.1	91.9	93.3	95.8	92.9	89.4	93.7	96.8	97.5	97.9
3 たいへん	10.6	10.6		57.4	78.9	85.6	95.4	95.1	93.7	94.0	93.7	90.5	92.6	97.2	96.1	96.5	96.5
4 とても	13.7	7.4	42.6		85.9	86.6	93.7	96.5	92.9	93.7	96.8	92.3	89.8	95.4	94.0	97.9	95.1
5 かなり	7.4	7.4	21.1	14.1		**51.8**	85.2	82.0	92.6	90.8	95.1	89.8	94.7	94.7	96.5	97.9	96.8
6 だいぶ	8.8	6.0	14.4	13.4	**48.2**		95.1	87.0	94.0	92.9	95.1	91.9	92.3	95.4	96.5	96.8	97.9
7 わりに	5.3	5.6	4.6	6.3	14.8	4.9		57.0	84.9	82.7	89.8	85.9	85.6	97.5	95.8	96.5	97.5
8 (大きい)	5.6	3.9	4.9	3.5	18.0	13.0	43.0		72.2	77.1	96.4	71.5	81.3	95.4	95.8	96.8	98.6
9 やや	4.9	8.1	6.3	7.1	7.4	6.0	15.1	27.8		63.7	70.1	75.7	73.6	93.3	95.8	97.5	96.8
10 多少	4.2	6.7	6.0	6.3	9.2	7.1	17.3	22.9	36.3		62.0	72.5	76.1	97.2	91.9	97.9	98.2
11 少し	5.3	4.2	6.3	3.2	4.9	4.9	10.2	3.6	29.9	38.0		69.0	64.8	89.4	92.3	97.9	96.8
12 わずかに	7.4	7.1	9.5	7.7	10.2	8.1	14.1	28.5	24.3	27.5	31.0		56.3	77.5	92.3	96.1	98.9
13 どちらかといえば	7.7	10.6	7.4	10.2	5.3	7.7	14.4	18.7	26.4	23.9	35.2	43.7		88.7	96.8	96.5	97.5
14 あまり	4.2	6.3	2.8	4.6	5.3	4.6	2.5	4.6	6.7	2.8	10.6	22.5	11.3		57.7	92.6	97.2
15 どちらともいえない	6.3	3.2	3.9	6.0	3.5	3.5	4.2	4.2	4.2	8.1	7.7	7.7	3.2	42.3		94.4	94.7
16 少しも	2.8	2.5	3.5	2.1	2.1	3.2	3.5	3.2	2.5	2.1	2.1	3.9	3.5	7.4	5.6		83.1
17 全然	3.5	2.1	3.5	4.9	3.2	2.1	2.5	1.4	3.2	1.8	3.2	1.1	2.5	2.8	5.3	16.9	

＊数値は行のことばがそれに対応する列のことばよりも現実の程度量が大きいと判断された比率（％）を示す。
太文字は5％の危険率で判断に統計的な有意差のないことを示す。（表9－1～表9－3についても同じ）

1・2　実現の程度量副詞（調査Ⅱ）

実現の程度量副詞についてみると，成人においては実現の程度量の大きいことをあらわす副詞として「絶対に」「完全に」「必ず」「きっと」「確かに」「疑いな

表9－2　現実の程度量副詞の判断比率行列（中学生）　（中学2年生サンプル数 286人）

	1 非常に	2 すごく	3 たいへん	4 とても	5 かなり	6 だいぶ	7 わりに	8 (大きい)	9 少し	10 やや	11 多少	12 わずかに	13 どちらかといえば	14 どちらともいえない	15 あまり	16 少しも	17 全然
1 非常に		72.7	89.5	88.8	87.7	88.8	97.9	95.8	96.1	94.0	97.9	97.9	97.5	98.6	98.6	97.5	98.6
2 すごく	27.3		76.5	93.7	86.3	93.0	95.4	94.4	97.9	97.5	94.7	96.1	98.2	98.6	98.9	98.6	98.6
3 たいへん	10.5	23.5		**52.7**	**51.4**	86.7	94.0	96.1	97.9	96.5	95.8	98.2	97.2	97.5	97.5	98.6	98.6
4 とても	11.2	6.3	**47.3**		78.6	68.5	94.7	95.8	97.9	96.8	96.1	97.5	96.1	98.2	96.8	98.6	98.6
5 かなり	12.3	13.7	**48.6**	21.4		55.9	90.9	92.3	96.5	96.5	94.7	98.2	96.5	98.2	95.1	98.6	98.6
6 だいぶ	11.2	7.0	13.3	31.5	44.1		96.1	92.3	96.8	94.7	97.9	96.8	95.8	98.9	97.5	98.6	98.6
7 わりに	2.1	4.6	6.0	5.3	9.1	3.9		64.3	83.9	85.6	85.6	90.9	90,5	96.5	96.5	99.3	96.5
8 (大きい)	4.2	5.6	3.9	4.2	7.7	7.7	35.7		72.0	72.7	68.1	72.3	86.7	98.2	96.1	98.9	97.9
9 少し	3.9	2.1	2.1	2.1	3.5	3.2	16.1	28.0		**51.4**	**51.4**	71.3	80.4	91.2	89.1	95.8	95.8
10 やや	6.0	2.5	3.5	3.2	3.5	5.3	14.4	27.3	**48.6**		62.9	74.1	76.9	96.5	93.0	96.1	96.8
11 多少	2.1	5.3	4.2	3.9	5.3	2.1	14.4	31.9	**48.6**	37.1		82.1	76.2	95.1	90.9	97.5	97.9
12 わずかに	2.1	3.9	1.8	2.5	1.8	3.2	9.1	27.7	29.7	25.9	17.9		63.3	91.6	77.2	96.1	95.1
13 どちらかといえば	2.5	1.8	2.8	3.9	3.5	4.2	9.5	13.3	19.6	23.1	23.8	36.7		94.7	80.4	96.8	93.7
14 どちらともいえない	1.4	1.4	2.5	1.8	1.8	1.1	3.5	1.8	8.8	3.5	4.9	8.4	5.3		**50.0**	91.6	95.1
15 あまり	1.4	1.1	2.5	3.2	4.9	2.5	3.5	3.9	10.9	7.0	9.1	22.8	19.6	**50.0**		82.5	98.2
16 少しも	2.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	0.7	1.1	4.2	3.9	2.5	3.9	3.2	8.4	17.5		97.4
17 全然	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	3.5	2.1	4.2	3.2	2.1	4.9	6.3	4.9	1.8	12.6	

表9－3　現実の程度量副詞の判断比率行列（高校生）　（高校1．2年生群サンプル数182人）

	1 非常に	2 すごく	3 大変	4 とても	5 かなり	6 だいぶ	7 (大きい)	8 わりに	9 やや	10 少し	11 多少	12 どちらかといえば	13 わずかに	14 どちらともいえない	15 あまり	16 少しも	17 全然
1 非常に		63.7	93.4	95.6	91.2	96.1	97.8	99.4	98.3	97.8	99.4	97.2	98.3	98.3	98.3	98.3	99.4
2 すごく	36.3		84.6	94.5	21.2	97.2	98.9	98.3	98.3	97.2	98.3	97.8	98.3	96.7	98.9	98.9	98.9
3 大変	6.6	15.4		60.4	60.4	89.5	97.8	96.1	98.9	97.8	96.1	99.4	100.0	97.2	98.3	99.4	98.3
4 とても	4.4	5.5	39.6		70.3	85.1	98.3	98.3	99.4	97.8	96.7	98.9	99.4	98.3	98.3	97.8	98.3
5 かなり	8.8	8.8	39.6	29.7		77.4	95.0	97.8	97.8	98.9	95.6	97.8	100.0	98.9	99.4	98.9	98.3
6 だいぶ	3.9	2.8	10.3	14.9	22.6		85.7	92.3	97.2	100.0	96.7	95.6	99.4	97.2	98.9	97.8	99.4
7 (大きい)	2.2	1.1	2.2	1.7	5.0	14.3		**54.4**	75.8	76.9	71.4	90.1	74.7	96.7	99.4	98.9	96.1
8 わりに	0.6	1.7	3.9	1.7	2.2	7.7	**45.6**		93.9	96.1	91.7	90.1	95.6	95.6	97.8	98.9	97.8
9 やや	1.7	1.7	1.1	0.6	2.2	2.8	24,2	6.1		**56.5**	65.3	70.8	79.1	94.5	90.6	96.7	97.2
10 少し	2.2	2.8	2.2	2.2	1.1	0	23.1	3.9	**43.5**		63.7	64.2	80.2	92.8	90.1	98.9	97.8
11 多少	0.6	1,7	3.9	3.3	4.4	3.3	28.1	8.3	34.7	36.3		74.7	82.4	91.2	92.8	98.9	98.3
12 どちらかといえば	2.8	2.2	0.6	1.1	2.2	4.4	9.9	9.9	29.2	35.8	25.3		61.5	97.2	85.1	98.3	96.1
13 わずかに	1.7	1.7	0	0.6	0	0.6	25.3	4.4	20.9	19.8	17.6	38.5		93.7	79.1	99.4	98.3
14 どちらともいえない	1.7	3.3	2.8	1.7	1.1	2.8	3.3	4.4	5.5	7.2	8.8	2.8	6.3		**53.3**	97.2	98.9
15 あまり	1.7	1.1	1.7	1.7	0.6	1.1	0.6	2.2	9.4	9.9	7.2	14.9	20.9	**46.7**		91.2	98.3
16 少しも	1.7	1.1	0.6	2.2	1.1	2.2	1.1	1.1	3.3	1.1	1.1	1.7	0.6	2.8	8.8		90.1
17 全然	0.6	1.1	1.7	1.7	1.7	0.6	3.9	2.2	2.8	2.2	1.7	3.9	1.7	1.1	1.7	9.9	

表10—1　実現の程度量副詞の比率行列*（小学生）　（小学校5年生，最小サンプル数125名）

	1 ぜったいに	2 かんぜんに	3 かならず	4 きっと	5 だんぜん	6 うたがいなく	7 たしかに	8 だんじて	9 たぶん	10 おそらく	11 たいてい	12 たいがい	13 おおかた	14 おおむね	15 おおよそ	16 まずまず	17 ほぼ	18 ことによると	19 もしかしたら	20 まあまあ	21 ややもすると	22 ひょっとして
1 ぜったいに		69.6	67.6	64.9	80.8	70.2	74.3	69.5	76.4	74.3	66.9	70.9	76.8	84.1	80.8	84.0	84.1	65.5	72.0	88.8	79.2	84.1
2 かんぜんに	30.4		**52.7**	62.8	74.8	58.3	74.8	80.8	68.2	68.2	69.5	70.3	68.9	82.4	80.4	76.8	78.4	67.6	72.8	85.6	80.0	78.4
3 かならず	32.4	**47.3**		**55.4**	74.4	**49.3**	80.7	76.8	70.2	66.9	74.2	72.2	75.7	80.4	79.1	84.0	78.4	73.6	76.8	84.8	85.6	79.2
4 きっと	35.1	37.2	**44.6**		66.2	**52.3**	66.9	60.3	68.9	74.3	73.6	77.0	74.8	86.8	75.0	84.0	84.0	72.3	75.2	89.6	92.0	91.2
5 だんぜん	19.2	25.2	25.6	33.8		**52.0**	**56.1**	63.9	63.5	**55.2**	67.5	66.9	65.6	72.8	72.8	75.5	68.9	68.2	65.6	74.3	76.2	70.3
6 うたがいなく	29.8	**41.7**	**50.7**	**47.7**	**48.0**		67.2	**52.8**	65.6	**55.6**	68.8	64.0	64.2	75.0	77.0	87.2	83.2	68.9	72.0	83.2	87.2	78.4
7 たしかに	25.7	25.2	19.3	33.1	**43.9**	32.8		**50.7**	66.3	65.6	62.2	68.9	68.8	76.0	82.1	78.1	68.9	70.9	68.9	86.1	76.8	70.9
8 だんじて	30.5	19.2	23.2	39.7	36.1	**47.2**	**49.3**		63.5	59.6	66.2	58.8	62.5	74.4	68.0	70.2	68.2	62.3	68.2	77.0	73.5	70.3
9 たぶん	23.6	31.8	29.8	31.1	36.5	34.4	33.8	36.5		**53.6**	**54.7**	58.1	**56.0**	59.7	72.0	72.8	70.9	75.5	76.8	88.7	78.8	75.7
10 おそらく	25.7	31.8	33.1	25.7	**44.8**	**44.4**	34.4	40.4	**46.4**		60.3	61.6	**45.9**	66.2	77.0	72.8	72.8	73.6	77.6	85.6	90.4	84.8
11 たいてい	33.1	30.5	25.8	26.4	32.4	31.2	37.8	33.8	**45.3**	39.7		**51.3**	**51.2**	66.2	74.8	72.2	64.9	73.0	73.6	86.8	82.4	86.8
12 たいがい	29.1	29.7	27.8	23.0	33.1	36.0	31.1	41.2	**41.9**	38.4	**48.7**		**54.3**	61.6	72.0	78.1	66.9	75.0	75.2	83.4	80.8	76.2
13 おおかた	23.2	31.1	24.3	25.2	34.4	35.8	31.2	37.5	**44.0**	**54.1**	**48.8**	**45.7**		67.6	75.7	64.8	72.0	68.9	58.4	80.0	80.8	71.2
14 おおむね	15.9	17.6	19.6	13.2	27.2	25.0	24.0	25.6	40.3	33.8	33.8	38.4	32.4		**50.7**	**53.6**	**52.8**	60.9	**54.4**	65.6	68.8	64.0
15 おおよそ	19.2	19.6	20.9	25.0	27.2	23.0	17.9	32.0	28.0	23.0	25.2	28.0	24.3	**49.3**		59.7	**57.6**	**55.6**	60.8	66.4	72.8	68.8
16 まずまず	16.0	23.2	16.0	16.0	24.5	12.8	21,9	29.8	27.2	27.2	27.8	21.9	35.2	**46.4**	40.3		**50.7**	**56.0**	**56.1**	68.2	64.2	62.2
17 ほぼ	15.9	21.6	21.6	16.0	31.1	16.8	31.1	31.8	29.1	27.2	35.1	33.1	28.0	**47.2**	**42.4**	**49.3**		**53.6**	62.8	74.3	62.2	68.9
18 ことによると	34.5	32.4	26.4	27.7	31.8	31.1	29,1	37.7	24.5	26.4	27.0	25.0	31.7	39.1	**44.4**	**44.0**	**46.4**		**52.0**	**56.0**	68.0	68.9
19 もしかしたら	28.0	27.2	23.2	24.8	34.4	28.0	31.1	31.8	23.2	22.4	26.4	24.8	**41.6**	**45.6**	39.2	**43.9**	37.2	**48.0**		**51.7**	66.2	76.4
20 まあまあ	11.2	14.4	15.2	10.4	25.7	16.8	13.9	23.0	11.3	14.4	13.2	16.6	20.0	34.4	33.6	31.8	25.7	**44.0**	**48.3**		66.2	66.9
21 ややもすると	20.8	20.0	14.4	8.0	23.8	12.8	23.2	26.5	21.2	9.6	17.6	19.2	19.2	31.2	27.2	35.8	37.7	32.0	33.8	33.8		60.3
22 ひょっとして	15.9	21.6	20.8	8.8	29.7	21.6	29.1	29.7	24.3	15.2	13.2	23.8	28.8	36.0	31.2	37.8	31.1	31.1	23.6	33.1	39.7	

＊ 数値は行のことばがそれに対応する列のことばよりも実現の程度量が大きいと判断された比率（%）を示す。

太文字は5%の危険率で判断に統計的な有意差のないことを示す。（表10—1～表10—3についても同じ）

表10—2　実現の程度量副詞の比率行列（高校生）　（高等学校3年生，サンプル数 139名）

	1 ぜったいに	2 かんぜんに	3 だんぜん	4 かならず	5 うたがいなく	6 だんじて	7 たしかに	8 きっと	9 おおかた	10 おそらく	11 おおむね	12 たいがい	13 まずまず	14 たいてい	15 たぶん	16 ほぼ	17 おおよそ	18 まあまあ	19 もしかしたら	20 ことによると	21 ひょっとして	22 ややもすると
1 ぜったいに		61.9	78.3	70.5	65.5	58.3	80.6	89.9	97.1	94.2	97.1	95.7	95.7	93.5	94.2	97.1	97.8	97.8	97.1	93.5	96.4	98.6
2 かんぜんに	38.1		64.0	61.2	64.7	69.8	82.7	84.2	95.7	93.5	95.7	95.0	95.0	95.7	94.2	95.7	96.4	96.4	97.8	95.0	93.5	96.4
3 だんぜん	21.7	36.0		52.1	61.9	63.3	57.6	58.0	91.4	87.8	95.0	94.2	95.0	93.5	93.5	93.5	94.2	94.2	95.7	91.4	92.1	99.3
4 かならず	29.5	38.8	47.9		64.0	63.3	74.1	68.3	95.0	94.2	97.1	95.0	97.1	92.8	90.6	94.2	97.8	95.0	95.0	95.7	96.4	97.8
5 うたがいなく	34.5	35.3	38.1	36.0		55.4	51.8	58.3	89.9	89.2	93.5	84.9	93.5	87.8	84.9	95.0	92.1	95.7	94.2	93.5	92.8	97.1
6 だんじて	41.7	30.2	36.7	36.7	44.6		64.0	64.0	84.5	90.6	91.4	85.6	89.2	85.6	87.1	94.2	87.8	91.4	93.5	90.6	89.9	97.1
7 たしかに	19.4	17.3	42.4	25.9	48.2	36.0		66.2	93.5	93.5	95.7	92.8	92.1	92.1	92.8	94.2	94.2	97.1	96.4	92.8	92.8	97.8
8 きっと	10.1	15.8	42.0	31.7	41.7	36.0	33.8		89.9	95.7	92.8	91.4	87.1	94.2	96.4	88.5	95.0	92.8	95.0	95.0	97.8	96.4
9 おおかた	2.9	4.3	8.6	5.0	10.1	15.5	6.5	10.1		53.2	69.1	52.1	54.0	50.0	63.3	67.6	75.5	77.0	87.1	84.2	88.5	83.5
10 おそらく	5.8	6.5	12.2	5.8	10.8	9.4	6.5	4.3	46.8		51.1	52.1	54.7	46.0	55.4	50.7	74.1	70.5	92.1	87.7	89.2	92.8
11 おおむね	2.9	4.3	5.0	2.9	6.5	8.6	4.3	7.2	30.9	48.9		50.0	53.2	54.0	56.1	61.2	67.6	78.3	80.6	74.8	79.1	87.8
12 たいがい	4.0	5.0	5.8	5.0	15.1	14.4	7.2	8.6	47.9	47.9	50.0		52.1	54.0	48.9	53.2	69.8	75.5	84.9	88.5	90.6	92.1
13 まずまず	4.3	5.0	5.0	2.9	6.5	10.8	7.9	12.9	46.0	45.3	46.8	47.9		53.2	61.2	66.9	66.2	75.5	85.6	72.7	77.7	85.6
14 たいてい	6.5	4.3	6.5	7.2	12.2	14.4	7.9	5.8	50.0	54.0	46.0	46.0	46.8		50.0	52.1	71.2	74.1	87.1	87.1	89.2	87.1
15 たぶん	5.8	5.8	6.5	9.4	15.1	12.9	7.2	3.6	36.7	44.6	43.9	51.1	38.8	50.0		33.8	61.2	74.8	87.7	83.5	87.8	84.9
16 ほぼ	2.9	4.3	6.5	5.8	5.0	5.8	5.8	11.5	32.4	49.3	38.8	46.8	33.1	47.9	66.2		59.7	74.1	82.0	76.3	84.9	76.1
17 おおよそ	2.2	3.6	5.8	2.2	7.9	12.2	5.8	5.0	24.5	25.9	32.4	30.2	33.8	28.8	38.8	40.3		58.7	81.3	74.8	80.6	86.3
18 まあまあ	2.2	3.6	5.8	5.0	4.3	8.6	2.9	7.2	23.0	29.5	21.7	24.5	24.5	25.9	25.2	25.9	41.3		67.6	72.7	81.3	81.3
19 もしかしたら	2.9	7.2	4.6	5.0	5.8	6.5	3.6	5.0	12.9	7.9	19.4	15.1	14.4	12.9	12.3	18.0	18.7	32.4		51.8	61.2	63.3
20 ことによると	6.5	5.0	8.6	4.3	6.5	9.4	7.2	5.0	15.8	12.3	25.2	11.5	27.3	12.9	16.5	23.7	25.2	27.3	48.2		64.0	77.7
21 ひょっとして	3.6	6.5	7.9	3.6	7.2	10.1	7.2	2.2	11.5	10.8	20.9	9.4	22.3	10.8	12.2	15.8	19.4	18.7	38.8	36.0		59.0
22 ややもすると	1.4	3.6	0.7	2.2	2.9	2.9	2.2	3.6	16.5	7.2	12.2	7.9	14.4	12.9	15.1	23.9	13.7	18.7	36.7	22.9	41.0	

表10—3　実現の程度量副詞の比率行列（成人）　（成人，サンプル数48名）

		1 ぜったいに	2 かんぜんに	3 かならず	4 だんじて	5 だんぜん	6 きっと	7 たしかに	8 うたがいなく	9 たいてい	10 おそらく	11 まずまず	12 たぶん	13 おおかた	14 たいがい	15 おおむね	16 ほぼ	17 おおよそ	18 まあまあ	19 ことによると	20 もしかすると	21 ややもすると	22 ひょっとして
1	ぜったいに		70.9	64.6	75.0	85.4	85.4	91.7	89.6	87.5	89.6	95.7	89.6	91.7	91.7	91.7	95.8	97.9	95.7	87.5	93.6	95.7	89.6
2	かんぜんに	29.1		60.5	56.3	70.9	75.0	75.0	83.4	89.6	89.6	95.7	87.5	87.5	87.5	95.8	91.5	95.8	89.3	89.6	93.6	95.7	89.3
3	かならず	35.4	39.5		57.4	72.3	70.9	83.4	85.4	85.4	91.7	100.0	91.7	91.7	91.7	100.0	97.9	97.9	95.7	87.5	95.7	100.0	97.9
4	だんじて	25.0	43.7	42.6		66.7	68.8	83.4	76.6	89.6	91.7	87.5	87.5	89.0	89.6	95.7	89.6	93.6	91.7	87.5	87.5	93.8	89.6
5	だんぜん	14.6	29.1	27.7	33.3		52.2	79.2	78.7	85.4	87.2	87.5	89.6	87.2	87.5	89.3	91.7	93.6	91.7	91.7	87.5	95.8	87.5
6	きっと	14.6	25.0	29.1	31.2	47.8		50.0	62.6	97.9	91.7	95.7	97.9	97.9	97.9	100.0	100.0	100.0	97.9	97.9	95.7	97.9	97.9
7	たしかに	8.3	25.0	16.6	16.6	20.8	50.0		57.4	89.6	87.5	95.8	77.1	93.6	89.6	97.9	93.8	91.7	95.8	89.6	91.7	95.8	91.7
8	うたがいなく	10.4	16.6	14.6	23.4	21.3	37.4	42.6		80.8	87.5	93.6	87.2	87.5	85.1	95.8	89.3	93.8	95.7	87.5	91.5	95.7	95.7
9	たいてい	12.5	10.4	14.6	10.4	14.6	2.1	10.4	19.2		54.2	62.6	54.2	61.7	58.4	64.6	60.5	85.4	89.6	87.5	91.5	93.6	93.8
10	おそらく	10.4	10.4	8.3	8.3	12.8	8.3	12.5	12.5	45.8		61.7	58.4	57.4	58.4	83.4	55.3	85.4	85.1	97.9	95.7	91.5	97.9
11	まずまず	4.3	4.3	0	12.5	12.5	4.3	4.2	6.4	37.4	38.3		58.4	53.1	43.7	57.4	79.2	70.2	83.4	93.6	83.4	91.7	97.9
12	たぶん	10.4	12.5	8.3	12.5	10.4	2.1	22.9	12.8	45.8	41.6	41.6		59.5	56.3	55.3	52.2	61.7	87.5	89.6	95.8	97.9	100.0
13	おおかた	8.3	12.5	8.3	11.0	12.8	2.1	6.4	12.5	38.3	42.6	46.9	40.5		62.6	79.2	61.7	60.5	76.6	87.5	89.3	97.9	95.7
14	たいがい	8.3	12.5	8.3	10.4	12.5	2.1	10.4	14.9	41.6	41.6	56.3	43.7	37.4		73.0	66.7	62.6	83.4	89.6	91.5	89.3	91.7
15	おおむね	8.3	4.2	0	4.3	10.7	0	2.1	4.2	35.4	16.6	42.6	44.7	20.8	27.0		57.4	58.4	63.8	77.1	87.2	93.6	93.6
16	ほぼ	4.2	8.5	2.1	10.4	8.3	0	6.2	10.7	39.5	44.7	20.8	47.8	38.3	33.3	42.6		70.2	73.0	81.3	89.6	87.6	87.5
17	おおよそ	2.1	4.2	2.1	6.4	6.4	0	8.3	6.2	14.6	14.6	29.8	38.3	39.5	37.4	41.6	29.8		74.4	87.5	83.0	85.1	93.6
18	まあまあ	4.3	10.7	4.3	8.3	8.3	2.1	4.2	4.3	10.4	14.9	16.6	10.4	23.4	16.6	36.2	27.0	25.6		78.7	79.2	91.7	83.4
19	ことによると	12.7	10.4	12.5	12.5	8.3	2.1	10.4	12.5	12.5	2.1	6.4	10.4	12.5	10.4	22.9	18.7	12.5	21.3		59.5	72.3	73.0
20	もしかしたら	6.4	6.4	4.3	12.5	10.4	4.3	8.3	8.5	8.5	4.3	16.6	4.2	10.7	8.5	12.8	10.4	17.0	20.8	40.5		58.4	77.1
21	ややもすると	4.3	4.3	0	6.2	4.2	2.1	4.2	4.3	6.4	8.5	8.3	2.1	2.1	10.7	6.4	10.4	14.9	8.3	27.7	41.6		64.6
22	ひよっとして	10.4	10.7	2.1	10.4	12.5	2.1	8.3	4.3	6.2	2.1	2.1	0	4.3	8.3	6.4	12.5	6.4	16.6	27.0	22.9	35.4	

表10—4　　実現の程度量副詞の意味の分化表　　（表9—1～表9—3参照）

	1 絶対に	2 完全に	3 必ず	4 断じて	5 断然	6 きっと	7 確かに	8 疑いなく	9 たいてい	10 おそらく	11 まずまず	12 多分	13 大方	14 たいがい	15 おおむね	16 ほぼ	17 おおよそ	18 まあまあ	19 ることによ	20 たらもしかし	21 るとややもす	22 してひょっと
1 絶対に	×○□		□																			
2 完全に		×○□	×□	□																		
3 必ず	□	×□	×○□	□○		×		×														
4 断じて		□	□	×○□			×	×○														
5 断然			○		×○□	○□	×○	×		×												
6 きっと			×		○□	×○□	□	×□														
7 確かに				×	×○	□	×○□	○□														
8 疑いなく		×	×	×○	×	×□	○□	×○□		×												
9 たいてい									×○□	○□	○□	×○□	×○□	×○□	○	○□						
10 おそらく						×		×	○□	×○□	○□	×○□	×○□	○□	○	□						
11 まずまず									○□	○□	×○□	□	○□	○□	×○□	×□			×□			
12 多分									×○□	×○□	□	×○□	□	×○□	○□	○□	□					
13 大方									×○□	×○□	○□	□	×○□	×○□		□	□					
14 たいがい									×○□	○□	○□	×○□	×○□	×○□	○	○	□					
15 おおむね									○□	○	×○□	○□	□	○	×○□	×□	×□	□		×□		
16 ほぼ									○□	○□	×□	○□	□	○	×□	×○□	×□		×□			
17 おおよそ												□	□	□	×□	×□	×○□		×□	×□		
18 まあまあ															□			×○□	×□	×□		
19 ことによると											×					×□	×□	×□	×○□	×○□		
20 もしかしたら															×		×□	×□	×○□	×○□	□	
21 ややもすると																				□	×○□	
22 ひょっとして																						×○□

（注）　×は小学生群，△は中学生群，○は高校生群，□は成人群において表中の行と列に対応する程度量副詞相互間の程度量について意味の差が5％の危険率ので認められないことを示す。

く」があり，この順に実現の程度が減少し，隣り合ったことば間には実現の程度量に関する判断の差はほとんどないといえる。しかし，実現の程度量が中程度の「9たいてい」から「17おおよそ」（または「18まあまあま」）までの9語間の実現の程度量の差はないといえよう（表10—3）。それ故に，同一の評定尺度にこれらの実現の程度量に関する判断に統計的にみて有意差がないいわゆる程度量の差異がないことばを使用するこは避けるべきであろう。「19ことによると」から「22ひょっとして」までの4語は低度な実現の程度量をあらわすことばとして成人群は理解している。

成人群においては実現の程度量副詞が高度，中度，低度の3群に大別されたが，高校生群においてもほぼ同様の結果が得られている（表9—2）。すなわち，実現の程度が高い「絶対に」「完全に」「断然」「必ず」「疑いなく」「断じて」「確かに」「きっと」，中程度の「大方」「恐らく」「おおむね」「大概」「まずまず」「大抵」「多分」「ほぼ」「おおよそ」「まあまあ」，および，低度の「もしかしたら」「ことによると」「ひょっとして」「ややもすると」に分かれる。小学生においてもほぼ同様の結果が得られている（表10—1）。

表10—4は小学生群，高校生群，成人群の各群別の実現の程度量の比率行列をもとに，副詞相互間の程度量の差異が弁別できるか否かをもとに作られた。表中の記号はそれに対応すする二つの副詞間の意味の差の弁別が5%以下の危険率では成立しているとはいえないことを示している。表によれば，実現の程度が高度な副詞として「絶対に」「完全に」「必ず」「断じて」「断然」「きっと」「疑いなく」，中程度の副詞として「大抵」「恐らく」「まずまず」「多分」「大方」「大概」「おおむね」「ほぼ」「おおよそ」「まあまあ」，低度の「ことによると」「もしかしたら」「ややもすると」「ひょっとして」に分類できる（表10—4）。

1・3　時間的程度量（頻度）副詞

成人群においては，最高頻度副詞として「ひっきりなしに」が，また，最低頻度副詞として「まれに」があ

表11—1　時間的程度量（頻度）の副詞の比率行列*（小学生）（小学5年生，サンプル数 115名）

	1 しょっちゅう	2 よく	3 いつも	4 たえず	5 いつでも	6 ひっきりなしに	7 しじゅう	8 ちょいちょい	9 たびたび	10 ときどき	11 たまに	12 ときたま	13 たまたま	14 ときおり	15 しばしば	16 まれに	17 おりおり	18 たまさか
1 しょっちゅう		51.3	46.1	56.5	54.8	51.3	69.6	80.0	72.2	70.0	73.0	70.0	78.3	80.9	81.7	87.8	89.6	88.7
2 よく	48.7		50.4	60.0	38.6	52.2	59.1	82.6	82.6	77.4	77.4	87.3	79.1	81.7	81.7	85.2	88.6	86.1
3 いつも	53.9	49.6		55.7	37.4	58.3	63.5	85.2	83.5	83.5	77.4	86.1	87.0	87.0	87.0	87.5	88.9	89.6
4 たえず	43.5	40.0	44.3		52.2	53.0	73.0	75.7	72.8	69.6	79.1	69.6	73.0	73.0	84.3	82.6	90.4	85.2
5 いつでも	45.2	61.4	62.6	47.8		47.8	69.6	80.9	80.0	79.1	81.7	82.6	79.1	89.6	85.2	88.7	90.4	90.4
6 ひっきりなしに	48.7	47.8	41.7	47.0	52.2		56.5	70.0	62.6	62.6	60.9	67.0	63.5	70.0	72.2	78.3	77.4	74.8
7 しじゅう	30.4	40.9	36.5	27.0	30.4	43.5		67.8	67.0	63.2	66.1	68.7	67.8	74.8	72.2	79.1	79.1	76.5
8 ちょいちょい	20.0	17.4	14.8	24.3	19.1	30.0	32.2		54.8	52.8	51.3	52.8	67.0	66.1	63.5	57.4	63.5	69.6
9 たびたび	27.8	17.4	16.5	27.2	20.0	37.4	33.0	45.2		53.0	60.0	56.5	67.0	63.5	62.6	55.7	70.0	71.3
10 ときどき	30.0	22.6	16.5	30.4	20.9	37.4	34.8	47.2	47.0		67.0	73.9	68.7	76.5	61.7	64.4	67.0	67.0
11 たまに	27.0	22.6	22.6	20.9	18.3	39.1	33.9	48.7	40.0	33.0		53.9	49.6	54.8	48.7	61.7	61.7	60.0
12 ときたま	30.0	21.7	13.9	30.4	17.4	33.0	31.3	47.8	43.5	26.1	46.1		56.2	67.0	60.0	60.9	61.7	72.2
13 たまたま	21.7	20.9	13.0	27.0	20.9	36.5	32.2	33.0	33.0	31.3	50.4	43.5		47.0	69.6	56.5	60.9	73.0
14 ときおり	19.1	18.3	13.0	27.0	10.4	30.0	25.2	33.9	36.5	23.5	45.2	33.0	53.0		54.8	60.0	71.3	70.0
15 しばしば	18.3	18.3	13.0	15.7	14.8	27.8	27.8	36.5	37.4	38.3	51.3	40.0	30.4	45.2		57.4	62.6	62.6
16 まれに	12.2	14.8	13.0	17.4	11.3	21.7	20.9	42.6	44.3	35.6	38.3	39.1	43.5	40.0	42.6		55.7	52.2
17 おりおり	10.4	11.4	11.1	9.6	9.6	22.6	20.9	36.5	30.0	33.0	38.3	38.3	39.1	28.7	37.4	44.3		58.3
18 たまさか	11.3	13.9	10.4	14.8	9.6	25.2	23.5	30.4	28.7	33.0	40.0	27.8	27.0	30.0	37.4	47.8	41.7	

＊ 数値は行のことばがそれに対応する列のことばよりも頻度が多いと判断された比率（%）を示す。
太文字は5%の危険率で統計的に有意差のないことを示す。（表10—1～表10—3についても同じ）

表11—2　時間的程度量（頻度）の副詞の比率行列（中学生）　（中学校2年生，サンプル数 170名）

	1 しにひっきりな	2 たえず	3 しじゅう	4 しょうちゅう	5 いつでも	6 いつも	7 よく	8 ひんぱんに	9 いちょいちょ	10 たびたび	11 しばしば	12 ときどき	13 おりおり	14 たまたま	15 ときたま	16 ときおり	17 たまに	18 たまさか	19 まれに
1 ひっきりなしに		68.8	67.1	68.2	72.9	71.8	75.9	88.2	84.7	88.2	85.9	84.1	90.6	83.5	84.1	90.0	87.6	91.8	84.7
2 たえず	31.2		62.4	55.3	65.9	57.6	60.0	78.9	82.3	94.1	92.3	91.2	91.2	87.6	87.1	91.2	92.4	89.4	84.1
3 しじゅう	32.9	37.6		71.8	59.4	63.5	74.7	75.3	87.6	85.9	87.6	86.5	97.1	89.4	94.7	91.2	88.2	89.3	90.0
4 しょっちゅう	31.8	44.7	28.2		68.8	64.7	75.3	81.2	88.8	88.2	97.1	88.2	92.4	90.0	89.4	91.2	87.6	89.9	88.2
5 いつでも	27.1	34.1	40.6	31.2		81.8	75.7	68.8	88.8	91.2	94.7	91.2	92.9	93.5	90.0	90.6	93.5	90.7	85.9
6 いつも	28.2	42.2	36.5	35.3	18.2		77.6	71.1	91.2	90.6	94.1	92.9	91.6	93.5	94.1	92.9	90.6	93.5	83.5
7 よく	24.1	40.0	25.3	24.7	24.3	22.4		67.6	86.5	87.6	91.8	91.8	91.3	92.4	90.6	90.6	95.9	90.0	84.0
8 ひんぱんに	11.8	21.1	24.7	18.8	31.2	28.9	32.4		67.6	71.8	68.2	67.1	71.1	73.5	74.7	61.5	74.7	74.4	65.9
9 ちょいちょい	15.3	17.7	12.4	11.2	11.2	8.8	13.5	32.4		54.4	58.8	61.2	59.4	70.6	70.0	71.8	77.0	61.7	65.9
10 たびたび	11.8	5.9	14.1	11.8	8.8	9.4	12.4	28.2	45.6		60.0	54.1	64.7	73.5	71.1	61.2	84.1	64.5	51.2
11 しばしば	14.1	7.7	12.4	2.9	5.3	5.9	8.2	31.8	41.2	40.0		54.1	50.6	54.4	60.9	63.0	72.4	59.8	58.6
12 ときどき	15.2	1.5	13.5	11.8	8.8	7.1	8.2	32.9	38.8	45.9	45.9		55.3	68.8	79.4	68.2	81.2	56.2	58.2
13 おりおり	9.4	8.8	2.9	7.6	7.1	8.4	8.8	28.9	40.6	35.3	49.4	44.7		51.8	58.2	58.5	62.4	58.0	58.8
14 たまたま	16.5	12.4	10.6	10.0	6.5	6.5	7.6	26.5	29.4	26.5	45.6	31.2	48.2		57.1	52.9	61.8	58.6	62.4
15 ときたま	27.0	12.9	5.3	10.6	10.0	5.9	9.4	25.3	30.0	28.9	39.1	20.6	41.8	42.9		56.5	63.0	64.3	60.0
16 ときおり	10.0	8.8	8.8	8.8	9.4	7.1	9.4	38.5	28.2	38.8	37.0	31.8	41.2	47.1	43.5		58.8	52.4	58.6
17 たまに	12.4	7.6	11.8	12.4	6.5	9.4	4.1	25.3	23.0	15.9	27.6	18.8	37.6	38.2	37.0	41.2		51.5	54.4
18 たまさか	8.2	10.6	10.8	10.1	9.3	6.5	10.0	25.6	38.5	35.5	40.2	43.8	42.0	41.4	35.7	47.6	48.5		51.8
19 まれに	15.3	15.9	10.0	11.8	14.1	16.5	16.0	34.1	34.1	48.8	41.4	41.8	41.2	37.6	40.0	41.4	45.6	48.2	

表11—3　時間的程度量（頻度）の副詞の比率行列（高校生）　（高等学校3年生，サンプル数 134名）

		1 しにひっきりな	2 しょうちゅう	3 たえず	4 しじゅう	5 いつでも	6 いつも	7 よく	8 ひんぱんに	9 ちょいちょい	10 たびたび	11 ときどき	12 しばしば	13 おりおり	14 たまたま	15 ときたま	16 ときおり	17 たまに	18 まれに	19 たまさか
1	ひっきりなしに		64.2	73.9	64.9	69.4	66.4	71.6	79.1	80.6	85.8	89.8	85.8	95.5	84.3	80.6	88.8	82.8	86.6	96.3
2	しょっちゅう	35.8		61.9	85.1	73.1	64.2	78.4	75.4	91.0	87.3	90.3	94.0	97.8	87.3	91.8	92.5	87.3	95.5	96.3
3	たえず	26.1	38.1		**54.5**	65.7	**49.3**	65.4	67.2	82.1	79.8	88.1	91.8	96.3	80.6	86.6	92.5	84.3	88.8	97.8
4	しじゅう	35.1	14.9	**45.5**		**55.2**	**56.0**	74.6	71.6	84.3	82.8	85.8	88.1	95.5	88.1	87.3	91.8	86.6	92.5	97.8
5	いつでも	30.6	26.9	34.3	**44.8**		61.2	79.8	61.2	72.5	94.8	91.0	96.3	95.5	91.8	94.8	96.3	91.8	89.6	97.1
6	いつも	33.6	35.8	**50.7**	**44.0**	38.8		83.6	59.7	91.8	92.5	91.8	95.5	93.9	91.8	92.5	95.5	93.3	91.8	96.3
7	よく	28.4	21.6	34.6	25.4	20.2	16.4		**56.7**	84.3	88.8	89.6	88.1	92.5	90.3	90.3	94.0	90.3	92.5	94.8
8	ひんぱんに	20.9	24.6	32.8	28.4	38.8	40.3	**43.3**		67.2	75.4	73.1	77.6	84.3	79.1	75.4	74.6	79.1	64.9	89.6
9	ちょいちょい	19.4	9.0	17.9	15.7	7.5	8.2	15.7	32.8		61.9	68.7	74.6	70.1	73.9	77.4	87.3	80.6	68.7	72.4
10	たびたび	14.2	12.7	20.2	17.3	5.2	7.5	11.2	24.6	38.1		65.7	73.1	70.9	72.4	78.4	82.1	76.1	64.9	77.6
11	ときどき	10.2	9.7	11.9	14.2	9.0	8.2	10.4	26.9	31.3	34.3		**50.0**	**51.5**	79.7	91.8	79.1	85.1	74.6	76.1
12	しばしば	14.2	6.0	8.2	11.9	3.7	4.5	11.9	22.4	25.4	26.9	**50.0**		**53.0**	64.2	73.9	75.4	71.6	64.9	79.1
13	おりおり	4.5	2.2	3.7	4.5	4.5	6.1	7.5	15.7	29.9	29.1	**48.5**	**47.0**		**49.3**	66.4	66.4	73.9	59.0	76.1
14	たまたま	15.7	12.7	19.4	11.9	8.2	8.2	9.7	20.9	26.1	27.6	20.3	35.8	**50.7**		64.9	75.4	73.9	60.4	82.1
15	ときたま	19.4	8.2	13.4	12.7	5.2	2.5	9.7	24.6	22.6	21.6	8.2	26.1	33.6	35.1		63.4	71.6	64.2	63.4
16	ときおり	11.2	7.5	7.5	8.2	3.7	4.5	6.0	25.4	12.7	17.9	20.9	24.6	33.6	24.6	36.6		73.9	**58.2**	**58.2**
17	たまに	17.2	12.7	15.7	13.4	8.7	6.7	9.7	20.9	19.4	23.9	14.9	28.4	26.1	26.1	28.4	26.1		61.9	**55.2**
18	まれに	13.4	4.5	11.2	7.5	10.4	8.2	7.5	35.1	31.3	35.1	25.4	35.1	41.0	39.6	35.8	**41.8**	38.1		**51.5**
19	たまさか	3.7	3.7	2.2	2.2	2.9	3.7	5.2	10.4	27.6	22.4	23.9	20.9	23.9	17.9	36.6	**41.8**	**44.8**	**48.5**	

表11—4　時間的程度量（頻度）の副詞の比率行列（成人）　（成人，サンプル数　43名）

	1 ひっきりなしに	2 しょっちゅう	3 しじゅう	4 たえず	5 ひんぱんに	6 いつも	7 いつでも	8 しげしげと	9 よく	10 しばしば	11 たびたび	12 ちょいちょい	13 ときどき	14 おりおり	15 ときおり	16 たまたま	17 ときたま	18 たまに	19 たまさか	20 まれに
1 ひっきりなしに		60.4	67.3	74.4	83.7	69.7	76.7	90.7	83.7	93.0	86.0	88.3	86.0	97.7	90.0	95.3	90.7	90.7	97.6	93.0
2 しょっちゅう	39.6		69.7	65.0	74.4	74.4	69.7	88.3	83.7	97.7	90.7	95.3	95.3	95.3	97.7	93.0	95.3	90.0	97.6	95.3
3 しじゅう	32.7	30.3		51.1	62.7	81.3	74.4	81.4	81.4	95.3	88.3	88.3	90.7	97.7	95.3	95.3	95.3	93.0	95.2	97.7
4 たえず	25.6	35.0	48.9		54.4	65.0	74.4	88.3	67.3	86.0	95.3	86.0	90.7	97.7	93.0	95.3	93.0	93.0	95.3	95.3
5 ひんぱんに	16.3	25.6	37.3	45.6		62.7	62.7	88.3	74.4	88.3	86.0	88.3	88.3	90.7	95.3	90.7	90.7	90.7	92.8	88.3
6 いつも	30.3	25.6	18.6	35.0	37.5		60.4	74.4	72.0	86.0	90.7	97.7	95.3	87.2	95.3	97.7	97.7	95.3	97.6	97.7
7 いつでも	23.3	30.3	25.6	25.6	37.3	39.6		62.7	76.2	81.4	81.4	90.7	93.0	90.7	95.3	90.7	97.7	93.0	94.1	97.7
8 しげしげと	9.3	11.7	18.6	11.7	11.7	25.6	37.3		54.4	65.0	60.4	79.0	81.4	83.7	83.7	81.4	86.0	83.7	90.5	86.0
9 よく	16.3	16.3	18.6	32.7	25.6	28.0	23.8	45.6		76.7	79.0	93.0	90.7	95.3	97.7	95.3	97.7	93.0	95.2	95.3
10 しばしば	7.0	2.3	4.7	14.0	11.7	14.0	18.6	35.0	23.3		58.1	58.1	72.0	83.7	83.7	86.0	90.7	86.0	95.2	88.3
11 たびたび	14.0	9.3	11.7	4.7	14.0	9.3	18.6	39.6	21.0	41.9		72.0	81.4	86.0	93.0	90.7	97.7	90.7	95.2	93.0
12 ちょいちょい	11.7	4.7	11.7	14.0	11.7	2.3	9.3	21.0	7.0	41.9	28.0		65.0	74.4	88.3	90.7	97.7	86.0	90.5	93.0
13 ときどき	14.0	4.7	9.3	9.3	11.7	11.7	7.0	18.6	9.3	28.0	18.6	35.0		59.5	90.7	100.0	93.0	90.7	88.1	95.3
14 おりおり	2.3	4.7	2.3	2.3	9.3	12.8	9.3	16.3	4.7	16.3	14.0	25.6	40.5		76.7	81.4	83.7	83.7	88.1	83.7
15 ときおり	9.3	2.3	4.7	7.0	4.7	4.7	4.7	16.3	2.3	16.3	7.0	11.7	9.3	23.3		62.7	74.4	81.4	76.2	90.7
16 たまたま	4.7	7.0	4.7	4.7	9.3	2.3	9.3	18.6	4.7	14.0	9.3	9.3	0	18.6	37.3		62.7	65.0	79.0	86.0
17 ときたま	9.3	4.7	4.7	7.0	9.3	2.3	2.3	14.0	2.3	9.3	2.3	2.3	7.0	16.3	25.6	37.3		54.4	71.4	90.7
18 たまに	9.3	9.3	7.0	7.0	9.3	4.7	7.0	16.3	7.0	14.0	9.3	14.0	9.3	16.3	18.6	35.0	45.6		60.4	90.7
19 たまさか	2.4	2.4	4.8	4.7	7.2	2.4	5.9	9.5	4.8	4.8	4.8	9.5	11.9	11.9	23.8	21.0	28.6	39.6		72.0
20 まれに	7.0	4.7	2.3	4.7	11.7	2.3	2.3	14.0	4.7	11.7	7.0	7.0	4.7	16.3	9.3	14.0	9.3	9.3	28.0	

表11—5　時間的程度量（頻度）の副詞の分化表　（表11—1～表11—4参照）

	1 ひっきりなしに	2 しょっちゅう	3 しじゅう	4 たえず	5 いつも	6 いつでも	7 よく	8 しばしば	9 たびたび	10 ちょいちょい	11 ときどき	12 おりおり	13 ときおり	14 たまたま	15 ときたま	16 たまに	17 たまさか	18 まれに
1 ひっきりなしに	×△×□	×□	×	×	×	×	×											
2 しょっちゅう	×□	×△○□		×	×	×	×											
3 しじゅう	×		×△○□	△○□	○	○												
4 たえず	×	×△	○□	×△○□	×○	×	×											
5 いつも	×	×	○	×○	×△○□	×□	×											
6 いつでも	×	×	○	×	×□	×△○□	×											
7 よく	×	×			×	×	×△○□											
8 しばしば								×△○□	□	□	△○	△○	×	△		×		×
9 たびたび								□	×△○□	×△	×△				×			×△
10 ちょいちょい								□	×△	×△○□	×				×	×		×
11 ときどき								△○	×△	×	×△○□	△○□					△	
12 おりおり								△○			△○□	×△○□		△○			×	×
13 ときおり								×					×△○□	×△□	△	×	△○	○
14 たまたま								△				△○□	×△	×△○□	×△□	×		×
15 ときたま									×	×			△	×△□	×△○□	× □		
16 たまに								×		×			×	×	× □	×△○□	△○□	△
17 たまさか												×	△○			△○□	×△○□	×△○
18 まれに								×	×△	×		×	△○	×		△	×△○□	×△○□

（注）×は小学生群，△は中学生群，○は高校生群，□は成人群において表中の行と列に対応する程度量副詞相互間の程度量についての意味の差が5％の危険率で認められないことを示す。

る。しかし，表中の隣り合った副詞相互間の頻度に関する判断によれば，5％以下の危険率で有意差はない（表11—4）。

同様の結果が中学生群，高校生群の判断結果にもみられる（表11—2，表11—3）。しかし，小学生群においては頻度をあらわす副詞が大別して3群分化しているにすぎない（表11—1）。すなわち，高頻度をあらわす「しょっちゅう」「よく」「いつも」「たえず」「いつでも」「ひっきりなしに」「しじゅう」，中頻度の「ちょいちょい」「たびたび」「時々」「時折」「しばしば」低頻度の「まれに」「折々」「たまさか」に分化している。このように頻度の副詞の意味づけは小学生群と中・高・成人群の間に大きな差のあることがうかがわれ，これらのことばを評定尺度用語として使用する際には十分注意を払う必要がある。*

1・4　現在を中心とした心理的時間の程度量副詞

未来をあらわす副詞間の意味の差異は比較的はっきりしている。しかし，「ほどなく」「やがて」「ちかじか」の3語間の意味の差異は小・中・高・成人の各群とも明確でない。小・中・高・成人の4群を通じてみると，未来の副詞は心理的現在に最も近い「ただちに」「すぐに」「いまにも」「いまに」，中程度の「まもな

*　表11—5を参照

表12　現在を中心とした心理的時間の程度量副詞（未来の副詞）の比率行列*

その1　（小学校5年生，サンプル数 166名）

	1 すぐに	2 ただちに	3 いまにも	4 いまに	5 まもなく	6 ちかじか	7 やがて	8 ほどなく	9 そのうち	10 とおからず
1 すぐに		60.2	85.5	74.1	95.2	92.8	95.8	91.0	97.0	96.4
2 ただちに	39.8		58.4	**51.2**	75.1	91.0	88.6	85.5	92.2	92.8
3 いまにも	14.5	41.6		66.3	62.0	85.5	81.9	91.6	93.4	93.4
4 いまに	25.9	**48.8**	33.7		71.1	83.7	91.6	86.1	91.6	90.4
5 まもなく	4.8	24.1	38.0	22.9		74.7	90.4	81.3	91.6	89.8
6 ちかじか	7.2	9.0	14.5	16.3	25.3		**51.8**	63.3	75.9	81.9
7 やがて	4.2	11.4	18.1	8.4	9.6	**48.2**		59.0	63.3	**54.8**
8 ほどなく	9.0	14.5	8.4	12.9	18.7	36.7	41.0		69.9	80.1
9 そのうちに	3.0	7.8	6.6	8.4	8.4	24.1	36.7	30.1		51.2
10 とおからず	3.6	7.2	6.6	9.6	10.2	18.1	45.2	19.9	48.8	

その2　（中学校2年生，カンプル数 122名）

	1 ただちに	2 すぐに	3 いまにも	4 いまに	5 まもなく	6 やがて	7 ちかじか	8 ほどなく	9 とおからず	10 そのうちに
1 ただちに		63.1	65.6	63.1	91.0	94.3	95.9	95.9	95.9	93.4
2 すぐに	36.9		67.2	76.2	91.0	91.0	91.0	93.4	97.5	97.5
3 いまにも	34.4	32.8		82.0	76.2	81.1	87.7	86.9	95.1	92.6
4 いまに	36.9	33.8	18.0		74.6	89.3	90.2	81.1	96.7	94.3
5 まもなく	9.0	9.0	23.8	25.4		86.1	74.6	76.2	91.8	93.4
6 やがて	5.7	9.0	18.9	10.7	13.9		**54.1**	**51.6**	64.8	69.7
7 ちかじか	4.1	9.0	12.3	9.8	25.4	**45.9**		**55.7**	84.4	81.1
8 ほどなく	4.1	6.6	13.1	18.9	23.8	**48.4**	**44.3**		78.7	74.6
9 とおからず	4.1	2.5	4.9	3.3	8.2	35.2	15.6	21.3		**51.6**
10 そのうちに	6.6	2.5	7.4	5.7	6.6	30.0	18.9	25.4	**48.4**	

その3　（高等学校3年生，サンプル数 135名）

	1 ただちに	2 すぐに	3 いまにも	4 いまに	5 まもなく	6 ほどなく	7 やがて	8 そのうちに	9 ちかじか	10 とおからず
1 ただちに		**54.1**	65.2	76.3	91.1	97.8	96.3	97.0	95.6	98.5
2 すぐに	**45.9**		64.4	76.3	93.3	94.8	97.8	97.8	97.8	99.3
3 いまにも	34.8	35.6		81.5	74.1	88.9	88.9	96.3	94.8	97.8
4 いまに	23.7	23.7	18.5		66.7	80.0	95.6	97.0	95.6	94.8
5 まもなく	8.9	6.7	25.9	33.0		80.0	91.1	97.0	91.9	96.3
6 ほどなく	2.2	5.2	11.1	20.0	20.0		**54.1**	81.5	67.4	87.4
7 やがて	3.7	2.2	11.1	4.4	8.9	**45.9**		72.6	65.9	73.3
8 そのうちに	3.0	2.2	3.7	3.0	3.0	18.5	27.4		69.6	63.7
9 ちかじか	4.4	2.2	5.2	4.4	8.1	32.6	34.1	30.4		91.1
10 とおからず	1.5	0.7	2.2	5.2	3.7	12.6	26.7	36.3	8.9	

その4　（成人，サンプル数　41名）

	1 ただちに	2 すぐに	3 いまにも	4 いまに	5 まもなく	6 ほどなく	7 やがて	8 ちかじか	9 そのうちに	10 とおからず
1 ただちに		78.0	85.4	90.2	95.1	95.1	95.1	97.6	95.1	100.0
2 すぐに	22.0		78.0	82.9	92.7	97.6	95.1	100.0	100.0	100.0
3 いまにも	14.6	22.0		80.5	78.0	97.6	87.8	92.7	92.7	97.6
4 いまに	9.8	17.1	19.5		73.2	78.0	90.2	90.2	92.7	95.1
5 まもなく	4.9	7.3	22.0	26.8		85.4	97.6	92.7	100.0	100.0
6 ほどなく	4.9	2.4	2.4	22.0	14.6		**61.0**	80.5	87.8	95.1
7 やがて	4.9	4.9	12.2	9.8	2.4	**39.0**		65.8	76.0	87.8
8 ちかじか	2.4	0	7.3	9.8	7.3	19.5	34.2		76.0	95.1
9 そのうちに	4.9	0	7.3	7.3	0	12.2	24.0	24.0		63.4
10 とおからず	0	0	2.4	4.9	0	4.9	12.2	4.9	36.6	

＊ 数値は行のことばが列のことばよりもより現在に近いことをあらわすことをあらわすことばとして判断された比率（%）を示す。
太字は5%の危険率で統計的に有意差のないことを示す。

表13　現在を中心とした心理的時間の程度量の副詞（過去の副詞）の比率行列*

その1　（小学校5年生，サンプル数 166名）

	1 まったい	2 いま	3 いましが	4 さっき	5 さきほど	6 もう	7 すでに	8 せんこく	9 とうに
1 ったいま		61.4	78.3	81.2	82.5	82.5	80.7	83.1	83.1
2 いま	38.6		85.5	84.9	83.7	84.3	83.1	81.7	85.5
3 ましがた	21.7	14.5		63.9	67.5	78.3	73.5	74.7	80.7
4 っき	18.8	15.1	36.1		68.7	71.7	73.5	69.3	83.7
5 きほど	17.5	16.3	32.5	31.3		72.9	76.5	72.9	81.4
6 う	17.5	15.7	21.7	28.3	27.1		64.5	57.2	82.5
7 でに	19.3	16.9	26.5	26.5	23.5	35.5		59.6	77.1
8 んこく	16.9	18.3	25.3	30.7	27.1	42.8	40.4		70.5
9 とうに	16.9	14.5	19.3	16.3	18.6	17.5	22.9	29.5	

その2　（中学校2年生，サンプル数 122名）

	1 まったい	2 いま	3 いましが	4 さっき	5 さきほど	6 もう	7 すでに	8 せんこく	9 とうに
1 ったいま		66.1	81.0	78.5	89.3	89.3	88.4	95.0	87.6
2 いま	33.9		81.8	90.9	92.6	87.6	88.4	89.5	90.9
3 ましがた	19.0	18.2		76.9	82.6	86.0	85.1	83.5	88.4
4 っき	21.5	9.1	23.1		76.9	78.5	81.8	79.3	88.4
5 きほど	10.7	7.4	17.4	23.1		75.2	83.5	82.6	89.1
6 う	10.7	12.4	14.0	21.5	24.8		74.4	**50.4**	83.5
7 でに	11.6	11.6	14.9	18.2	16.5	25.6		**51.2**	77.7
8 んこく	5.0	10.4	16.5	20.7	17.4	**49.6**	**48.8**		68.6
9 とうに	12.4	9.1	11.6	11.6	10.9	16.5	22.3	31.4	

その3　（高等学校3年生，サンプル数 135名）

	1 たったいま	2 いま	3 いましがた	4 さっき	5 さきほど	6 もう	7 すでに	8 せんこく	9 とうに
1 たったいま		82.8	81.3	86.6	92.6	90.3	91.8	94.8	93.3
2 いま	17.2		90.3	91.0	93.3	91.8	92.5	92.7	93.3
3 いましがた	18.7	9.7		78.2	82.1	82.9	88.1	90.3	90.3
4 さっき	14.3	9.0	21.8		74.6	73.1	83.6	91.8	94.0
5 さきほど	7.4	6.7	17.9	25.4		76.1	86.6	79.1	93.1
6 もう	9.7	8.2	17.1	26.9	23.9		80.6	**58.0**	91.8
7 すでに	8.2	7.5	11.9	16.4	23.4	19.4		**56.0**	85.8
8 せんこく	5.2	7.3	9.7	8.2	20.9	**42.0**	**44.0**		79.1
9 とうに	6.7	6.7	9.7	6.0	6.9	8.2	11.2	20.9	

その4　（成人，サンプル数 41名）

	1 たったいま	2 いま	3 いましがた	4 さっき	5 さきほど	6 せんこく	7 もう	8 すでに	9 とうに
1 たったいま		80.5	90.2	95.1	97.6	97.6	90.2	97.6	90.2
2 いま	19.5		92.7	92.7	95.1	93.9	95.1	100.0	95.1
3 いましがた	9.8	7.3		85.4	80.5	91.5	90.2	90.2	97.6
4 さっき	4.9	7.3	14.6		68.3	85.4	90.2	95.1	100.0
5 さきほど	2.4	4.9	19.5	31.7		80.5	90.2	90.2	92.5
6 せんこく	2.4	6.1	4.9	14.6	19.5		68.3	63.4	92.7
7 もう	9.8	4.9	9.8	9.8	9.8	31.7		87.8	100.0
8 すでに	2.4	0	9.8	4.9	9.8	36.6	12.2		97.6
9 とうに	9.8	4.9	2.4	0	7.5	7.3	0	2.4	

＊ 数値は行のことばが列のことばよりもより現在に近いことをあらわすことばとして判断された比率(%)を示す。
太文字は5%の危険率で統計的な有意差のないことを示す。

く」「ほどなく」「やがて」「ちかじか」，心理的現在に最も遠い「そのうちに」「とおからず」に分類できる。＊

過去の副詞も未来の副詞と同じように意味づけの発達水準による差異はあまりみられない。現在に近い過去をあらわす「たったいま」「いま」「いましがた」といった副詞相互間の意味の差異は各群とも理解しているが，それよりも遠い過去を意味する「さっき」「さきほど」の意味の差異に関する理解は成立していない。同様に最も遠い過去をあらわす「せんこく」「もう」「すでに」の意味の差異の理解は成立していないように思われる。

2　尺度値の考察

程度量に関する判断の比率行列からその尺度値が求められた。次にその結果について考察する。

2・1　現実の程度量副詞の尺度値

現実の程度量副詞の尺度値は小学生群と中学生群は非常によく似ている（表15，図1）。

高校生群においては判断の比率に極端な値が多数みられたため，尺度化にあたり判断の比率行列を三つの部々に分割して尺度値が算出されている。それ故に，小学生群，中学生群の尺度値と同一レベルで解釈はできないが図1にみられるように小学生群，中学生群，高校生群ともことばの群化は非常によく似ている。小・中・高の3群を通じて調査Ⅰに用いられた17個のことばは大別して6群に分類される。最も現実の程度量の大きい，換言すれば，最も尺度値の大きいことばの群には，「非常に」「すごく」が含まれる。二番目に尺度値の大きいものと

＊　表「14」参照

表14　現在を中心とした心理的時間の程度量副詞の分化表

その1　未来の副詞の意味の分化表　（表11参照）

	1 ただちに	2 すぐに	3 いまにも	4 いまに	5 まもなく	6 ほどなく	7 やがて	8 ちかじか	9 そのうちに	10 とおからず
1 ただちに	×△○□	○		×						
2 すぐに	○	×△○□								
3 いまにも			×△○□							
4 いまに	×			×△○□						
5 まもなく					×△○□					
6 ほどなく						×△○□	△○□	△		
7 やがて						△○□	×△○□	×△		×
8 ちかじか						△	×△	×△○□		
9 そのうちに									×△○□	×△□
10 とおからず							×		×△□	×△○□

（注）×は小学生群，△は中学生群，○は高校生群，□は成人群において表中の行と列に対応する程度量副詞相互間の程度量についての意味の差が5％の危険率で認められないことを示す。

その2　過去の副詞の意味の分化表　（表12参照）

	1 まったい	2 いま	3 たいましが	4 さっき	5 さきほど	6 せんこく	7 もう	8 すでに	9 とうに
1 たったいま	×△○□								
2 いま		×△○□							
3 いましがた			×△○□						
4 さっき				×△○□					
5 さきほど					×△○□				
6 せんこく						×△○□	△○	△○	
7 もう						△○	×△○□		
8 すでに						△○		×△○□	
9 とうに									×△○□

して「大変」「とても」「かなり」「だいぶ」がある。ただし，「だいぶ」は高校生群においては三番目の群に分類すべきであるように思われる。このように小・中学生群と高校生群とで程度量に関する意味づけの異なる「だいぶ」ということばは評定尺度用語として用いることを避けるべきであろう。第四番目に尺度値の大きいことばとしては「やや」「多少」「少し」「どちらかといえば」「わずかに」の5語がある。第五番目の群には「あまり」「どちらともいえない」が，最も尺度値の小さいことばとして「少しも」「全然」がある。ただし，小学生群においては「少しも」と「全然」との間の尺度値の差はわずかであるが，中学生，高校生へと進むに

表15　程度量副詞の尺度値（尺度変換前の尺度値）

現実の程度量副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	中学生	高校生		
1 非常に	1.38	1.54	1.24		
2 すごく	1.38	1.46	1.08		
3 大変	1.03	1.17	0.18		
4 とても	1.01	1.12	0.00		
5 かなり	0.70	0.99	−0.16		
6 だいぶ	0.73	0.93	−0.81		
7 (大きい)	0.17	0.07	−1.53	0.88	
8 わりに	0.23	0.21		1.25	
9 やや	−0.08	−0.22		0.29	
10 すこし	−0.38	−0.32		0.18	
11 多少	−0.13	−0.24		0.19	
12 どちらかといえば	−0.32	−0.61		−0.10	
13 わずかに	−0.33	−0.57		−0.32	
14 どちらともいえない	−1.09	−1.21		−1.26	
15 あまり	−0.99	−1.04		−1.11	1.12
16 すこしも	−1.58	−1.49			−0.02
17 全然	−1.72	−1.78			−1.10

実現の程度量の副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	高校生	成人
1 ぜったいに	0.71	1.40	1.29
2 かならず	0.59	1.18	1.23
3 きっと	0.60	0.85	1.16
4 かんぜんに	0.56	1.29	1.06
5 だんじて	0.17	0.83	0.95
6 だんぜん	0.23	1.03	0.80
7 たしかに	0.25	0.93	0.74
8 うたがいなく	0.42	0.90	0.65
9 おそらく	0.21	−0.24	0.05
10 たいてい	0.11	−0.27	−0.02
11 たぶん	0.14	−0.35	−0.08
12 おおかた	0.04	−0.21	−0.13
13 たいがい	0.08	−0.25	−0.18
14 まずまず	−0.41	−0.34	−0.23
15 ほぼ	−0.33	−0.44	−0.43
16 おおむね	−0.31	−0.40	−0.55
17 おおよそ	−0.33	−0.63	−0.60
18 まあまあ	−0.69	−0.77	−0.79
19 ことによると	−0.31	−0.95	−1.00
20 もしかしたら	−0.35	−1.10	−1.11
21 ややもすると	−0.71	−1.32	−1.40
22 ひょっとして	−0.67	−1.13	−1.41

時間的程度量（頻度）の副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	中学生	高校生	成人
1 しょっちゅう	0.59	0.87	1.08	1.21
2 ひっきりなしに	0.32	0.94	0.92	1.15
3 しじゅう	0.23	0.89	0.79	1.03
4 たえず	0.53	0.85	0.79	0.97
5 いつも	0.72	0.80	0.93	0.91
6 ひんぱんに	—	0.04	0.27	0.77
7 いつでも	0.72	0.85	0.90	0.73
8 よく	0.62	0.63	0.59	0.59
9 しげしげと	—	—	—	0.16
10 たびたび	−0.12	−0.33	−0.20	0.10
11 しばしば	−0.42	−0.51	−0.47	−0.06
12 ちょいちょい	−0.17	−0.25	−0.06	−0.17
13 ときどき	−0.03	−0.37	−0.27	−0.23
14 おりおり	−0.64	−0.57	−0.65	−0.56
15 ときおり	−0.38	−0.63	−0.84	−0.86
16 たまたま	−0.29	−0.58	−0.48	−0.95
17 たまに	−0.25	−0.80	−0.80	−0.95
18 ときたま	−0.24	−0.63	−0.68	−1.12
19 たまさか	−0.67	−0.66	−1.08	−1.27
20 まれに	−0.52	−0.55	−0.73	−1.43

心理的現在を中心とした実現の程度量の副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	中学生	高校生	成人
未来の副詞				
1 ただちに	0.79	1.19	1.33	1.52
2 すぐに	1.32	1.14	1.35	1.34
3 いまにも	0.65	0.79	0.96	0.87
4 いまに	0.62	0.61	0.65	0.44
5 まもなく	0.26	0.15	0.37	0.44
6 ほどなく	−0.55	−0.52	−0.44	−0.39
7 やがて	−0.65	−0.57	−0.73	−0.64
8 ちかじか	−0.39	−0.47	−0.93	−0.79
9 そのうちに	−1.01	−1.12	−1.13	−1.20
10 とおからず	−1.03	−1.19	−1.43	−1.61
過去の副詞				
1 たったいま	0.83	1.07	1.28	1.54
2 いま	0.84	1.03	1.12	1.32
3 いましがた	0.24	0.52	0.53	0.64
4 さっき	0.11	0.20	0.25	0.29
5 さきほど	−0.00	−0.07	−0.05	−0.01
6 もう	−0.30	−0.41	−0.31	−0.52
7 せんこく	−0.44	−0.65	−0.77	−0.57
8 すでに	−0.40	−0.65	−0.72	−0.97
9 とうに	−0.87	−1.04	−1.33	−1.73

表16　程度量副詞の尺度値（尺度変換後の尺度値）

現実の程度量副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	中学生	高校生
1 非常に	3.10	3.32	6.98
2 すごく	3.10	3.24	6.82
3 大変	2.75	2.95	5.92
4 とても	2.73	2.90	5.74
5 かなり	2.42	2.77	5.58
6 だいぶ	2.45	2.71	4.93
7 (大きい)	1.89	1.85	4.21
8 わりに	1.95	1.99	4.58
9 やや	1.64	1.56	3.62
10 すこし	1.34	1.46	3.51
11 多少	1.59	1.54	3.52
12 どちらかといえば	1.40	1.17	3.23
13 わずかに	1.39	1.21	3.01
14 どちらともいえない	0.63	0.57	2.07
15 あまり	0.73	0.74	2.22
16 すこしも	0.14	0.29	1.08
17 全然	0.00	0.00	0
α	1.72	1.78	

実現の程度量の副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	高校生	成人
1 ぜったいに	1.42	2.72	2.70
2 かならず	1.30	2.50	2.64
3 きっと	1.31	2.17	2.57
4 かんぜんに	1.28	2.61	2.47
5 だんじて	0.87	2.15	2.36
6 だんぜん	0.94	2.35	2.21
7 たしかに	0.96	2.25	2.15
8 うたがいなく	1.14	2.22	2.06
9 おそらく	0.92	1.08	1.46
10 たいてい	0.82	1.05	1.39
11 たぶん	0.85	0.97	1.33
12 おおかた	0.75	1.11	1.28
13 たいがい	0.79	1.07	1.23
14 まずまず	0.30	0.98	1.18
15 ほぼ	0.38	0.88	0.98
16 おおむね	0.40	0.92	0.86
17 おおよそ	0.48	0.69	0.81
18 まあまあ	0.02	0.55	0.62
19 ことによると	0.40	0.37	0.41
20 もしかしたら	0.36	0.22	0.30
21 ややもすると	0.00	0.00	0.01
22 ひょっとして	0.04	0.19	0.00
α	0.71	1.32	1.41

時間的程度量（頻度）の副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	中学生	高校生	成人
1 しょっちゅう	1.26	1.67	2.16	2.64
2 ひっきりなしに	0.99	1.74	2.00	2.58
3 しじゅう	0.90	1.69	1.87	2.46
4 たえず	1.20	1.65	1.87	2.39
5 いつも	1.39	1.60	2.00	2.34
6 ひんぱんに	—	0.84	1.35	2.20
7 いつでも	1.39	1.65	1.97	2.16
8 よくよく	1.29	1.43	1.66	2.02
9 しげしげと	—	—	—	1.59
10 たびたび	0.55	0.47	0.88	1.54
11 しばしば	0.25	0.29	0.61	1.37
12 ちょいちょい	0.50	0.55	1.02	1.26
13 ときどき	0.64	0.43	0.81	1.20
14 おりおり	0.03	0.23	0.43	0.87
15 ときおり	0.29	0.17	0.24	0.57
16 たまたま	0.38	0.22	0.60	0.48
17 たまに	0.42	0.00	0.28	0.48
18 ときたま	0.43	0.17	0.40	0.31
19 たまさか	0.00	0.14	0.00	0.17
20 まれに	0.15	0.25	0.35	0.00
α	0.67	0.80	1.08	1.43

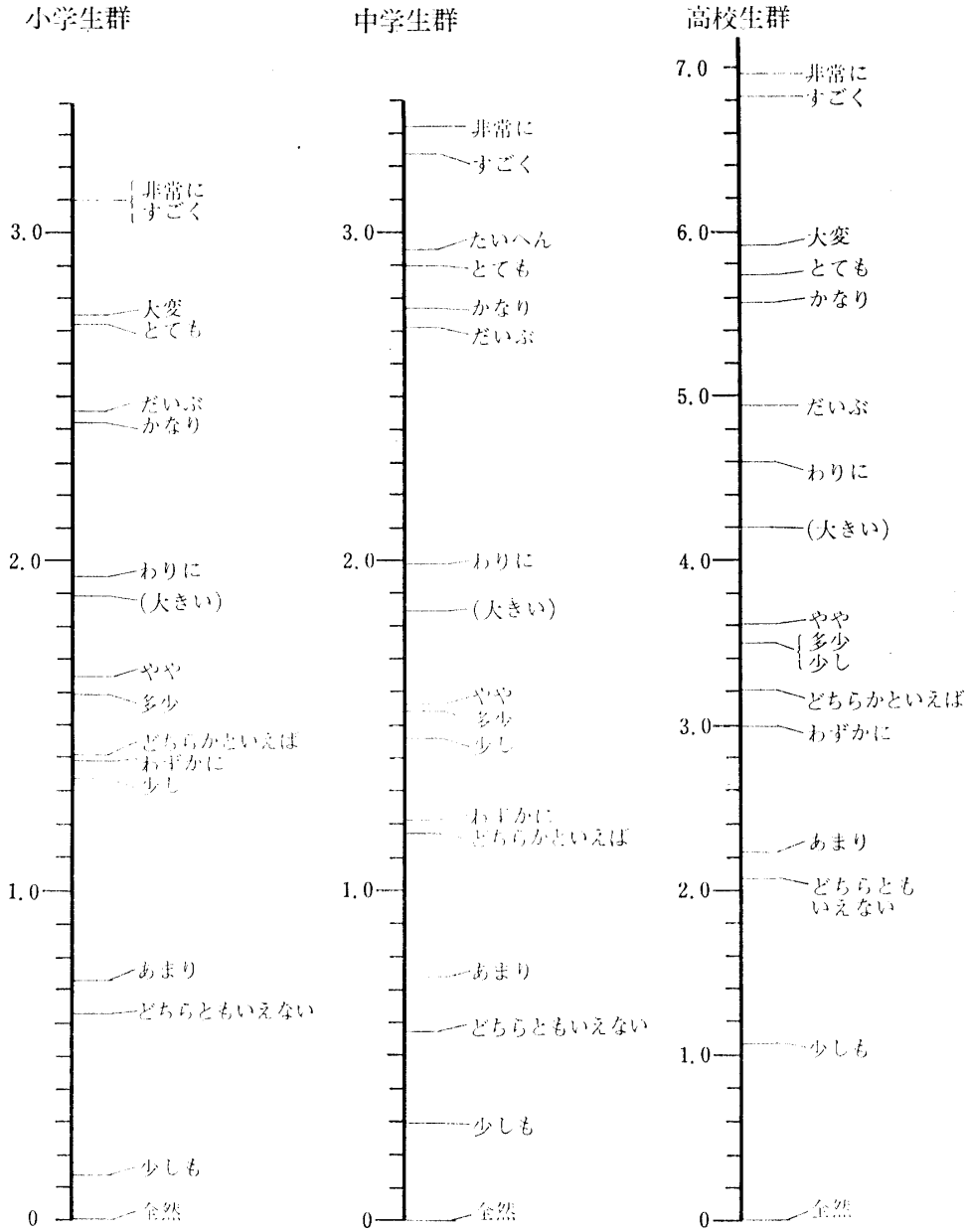
心理的現在を中心とした実現の程度量の副詞の尺度値

副詞＼群	小学生	中学生	高校生	成人
未来の副詞				
1 ただちに	1.82	2.38	2.75	3.13
2 すぐに	2.34	2.33	2.78	2.95
3 いまにも	1.67	1.98	2.39	2.48
4 いまに	1.65	1.80	2.08	2.05
5 まもなく	1.28	1.34	1.80	2.05
6 ほどなく	0.48	0.67	0.99	1.22
7 やがて	0.37	0.62	0.70	0.97
8 ちかじか	0.64	0.72	0.50	0.82
9 そのうちに	0.02	0.07	0.30	0.41
10 とおからず	0.00	0.00	0.00	0.00
α	1.03	1.19	1.43	1.61
過去の副詞				
1 たったいま	1.70	2.11	2.61	3.27
2 いま	1.71	2.07	2.45	3.05
3 いましがた	1.11	1.56	1.86	2.37
4 さっき	0.98	1.24	1.58	2.02
5 さきほど	0.87	0.97	1.28	1.72
6 もう	0.57	0.63	1.02	1.21
7 せんこく	0.43	0.39	0.56	1.16
8 すでに	0.47	0.39	0.61	0.76
9 とうに	0.00	0.00	0.00	0.00
α	0.87	1.04	1.33	1.73

（注）尺度値の変換式は次の通りである。

$Rj = Mj + \alpha$　但し，Rjは変換後の尺度値，Mjは変換前の尺度値，αは定数である。

図1　現実の程度量副詞の尺度値



つれて尺度値の差が大きくなり，「少しも」と「全然」は別の分類カテゴリーに分類すべきかもしれないが，ここでは一応同じカテゴリーに分類した。

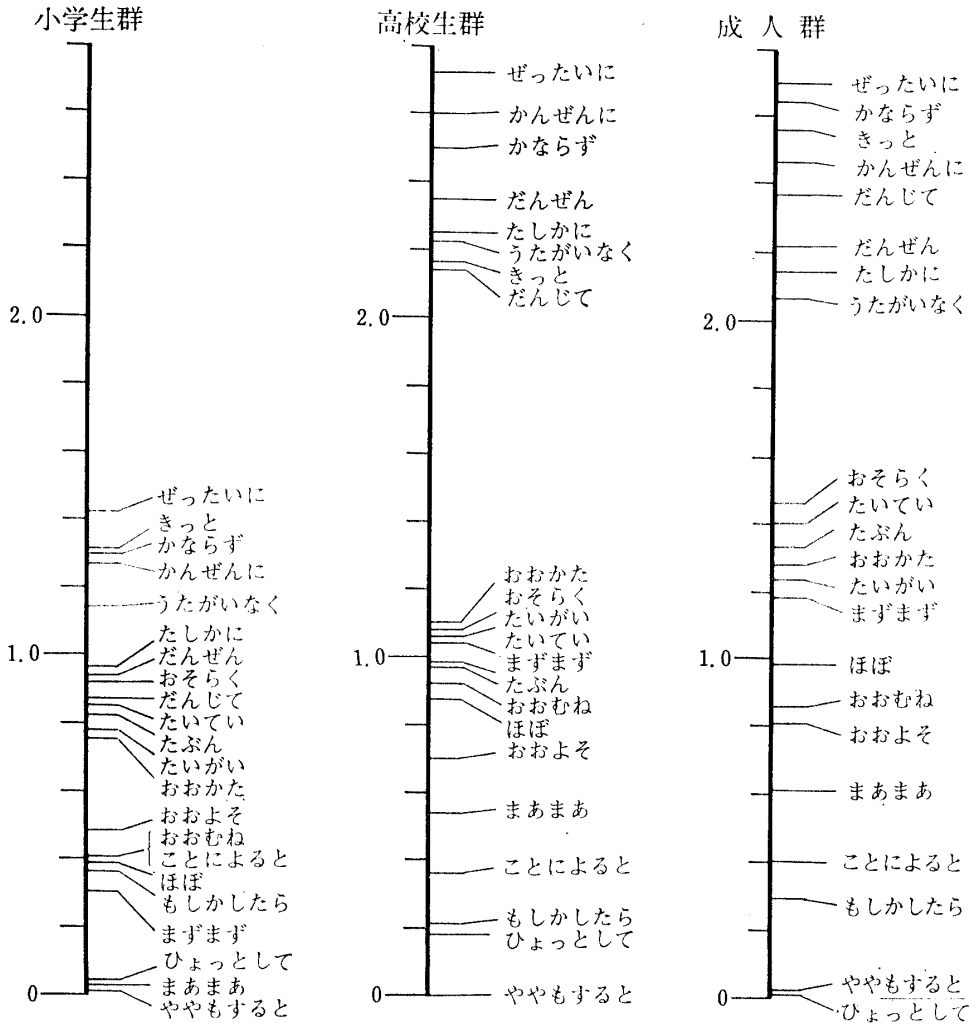
2・2　実現の程度量副詞の尺度値

成人群においては，尺度値の最大値は小学生群のそれよりも約2倍の値を示し，調査Ⅱで用いられた程度量副詞相互間の意味づけがより分化していることがうかがえる。小学生群においては，実現の程度量副詞はその尺度値からほぼ4群に分けられる。実現の程度量が最も大きい「絶対に」「きっと」「必ず」「完全に」「疑いなく」，第二群は「確かに」「断然」「恐らく」「多分」「断じて」「大抵」「大概」「大方」，第三群は「おおむね」「おおよそ」「ほぼ」「まずまず」「ことによると」「もしかしたら」，尺度値の最も小さい第四群には「ひょっとして」「まあまあ」「ややもすると」に分類される。しかし，第二群に含まれている「断然」「断じて」「確かに」は本来実現の程度量最大の第一群に分類されるべきことばであり，これらのことばの意味の理解はあまり進んでいないように思われる。また，小学生群においては，副詞相互間の尺度値の差が極めて小さく，高校生や成人群に比較して実現の程度量副詞の意味の分化程度が低いことがうかがえる（図2）。

2・3　時間的程度量（頻度）の副詞の尺度値

頻度の副詞の尺度値をみると，成人群の尺度値の最大

図2　実現の程度量副詞の尺度値



値は小学生群の尺度値の最大値の約2倍になっており，年令が増すにつれて意味の分化が進むことがうかがえる（表15，16　図3）。小学生群においては頻度副詞の多い少いの順序関係についての現解はある程度できているが，尺度値の値が全般に小さいことから意味の分化があまり進んでいない。

頻度の副詞は小学生群，中学生群，高校生群とも大別して二群に分化しているにすぎない。すなわち，高頻度をあらわす「いつも」「いつでも」「よく」「しょっちゅう」「たえず」「ひっきりなしに」「しじゅう」「ひんぱんに」と，低頻度をあらわす「ときどき」「たびたび」「ちょいちょい」「ときたま」「たまに」「たまたま」「ときおり」「まれに」「おりおり」「たまさか」である。しかし，成人群においては，小・中・高生群の低頻度をあらわすことばが更に二つの群に分化している。すなわち，「しげしげと」「たびたび」「しばしば」「ちょいちょい」「ときどき」「おりおり」と「ときおり」「たまたま」「たまに」「ときたま」「たまさか」「まれに」の二群に分かれている（図3）。

2・4　現在を中心とした心理的時間の程度量副詞の尺度値

未来をあらわす副詞および過去をあらわす副詞のいずれにおいてもその意味づけの群間の差はあまりない。ただ，他の副詞の尺度値の考察で明らかにされたように副詞の尺度値は年令が高くなるにつれ大きくなるという一般的な傾向がここでもみられる（表15，16，図4－1，4－2）。

要　約

程度量表現語彙リストのうち「現実の程度量副詞」「実現の程度量副詞」「時間的程度量（頻度）副詞」「心理的時間の程度量副詞」の意味づけおよび被験者の発達水準による意味づけの差異の実態を把握するために小学校5年生，中学校2年生，高等学校1，2，3年生および

図3　時間的程度量（頻度）副詞の尺度値

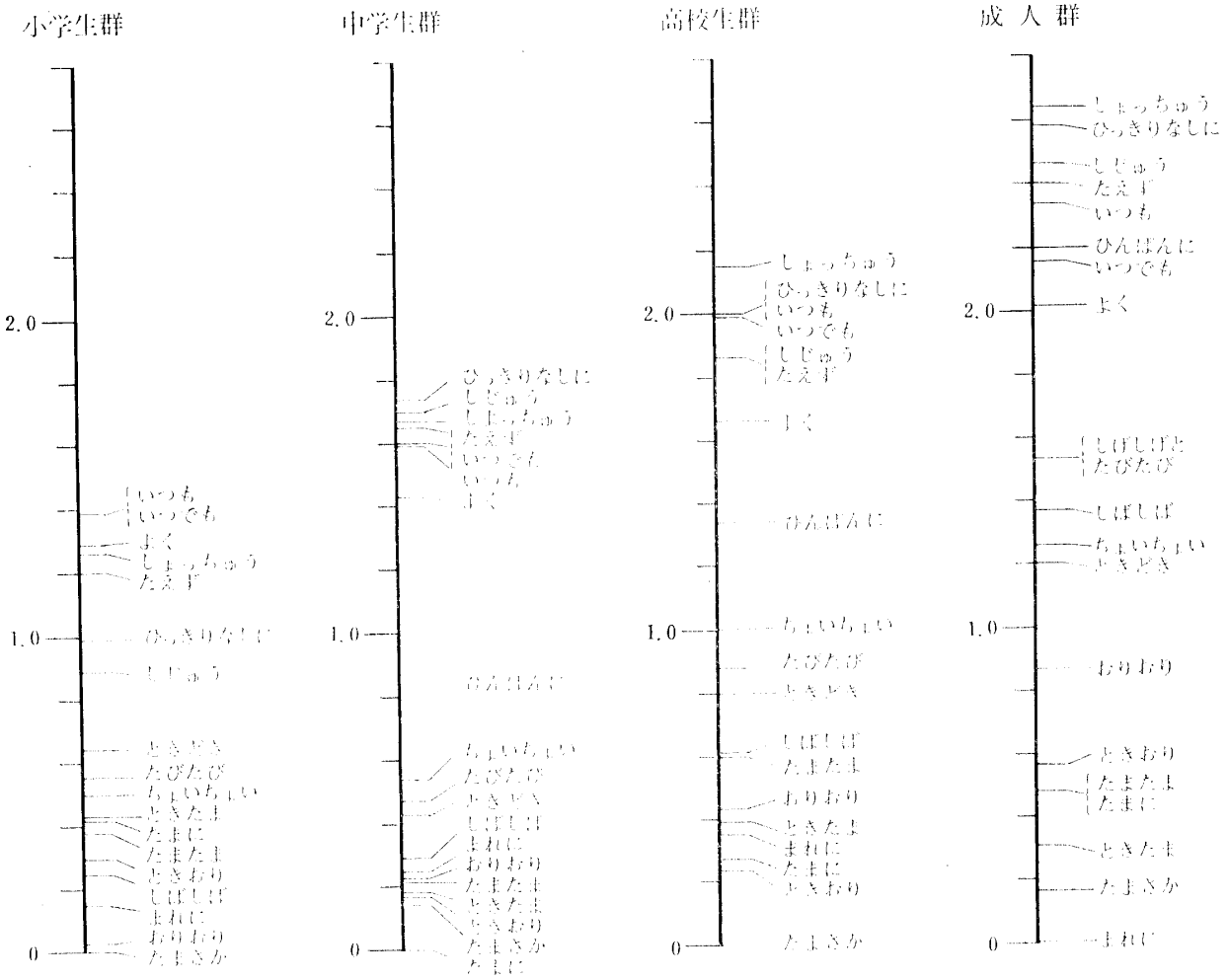


図4—1　心理的現在を中心とした実現の程度量副詞の尺度値（未来の副詞）

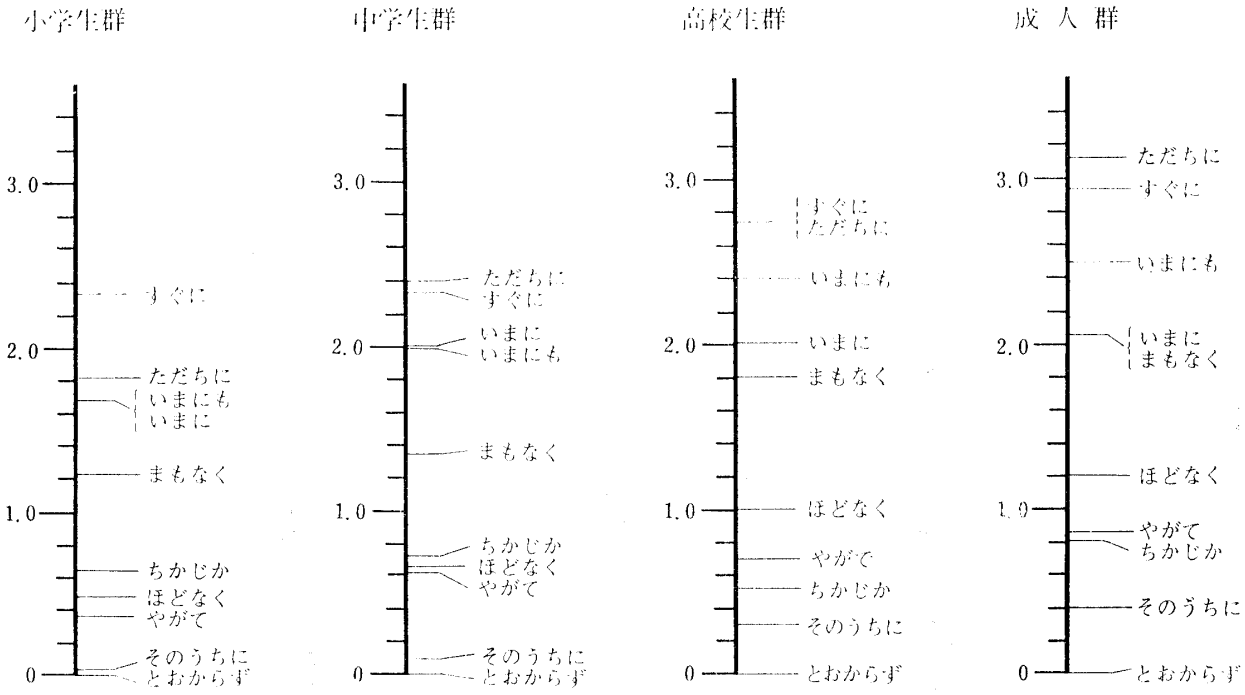
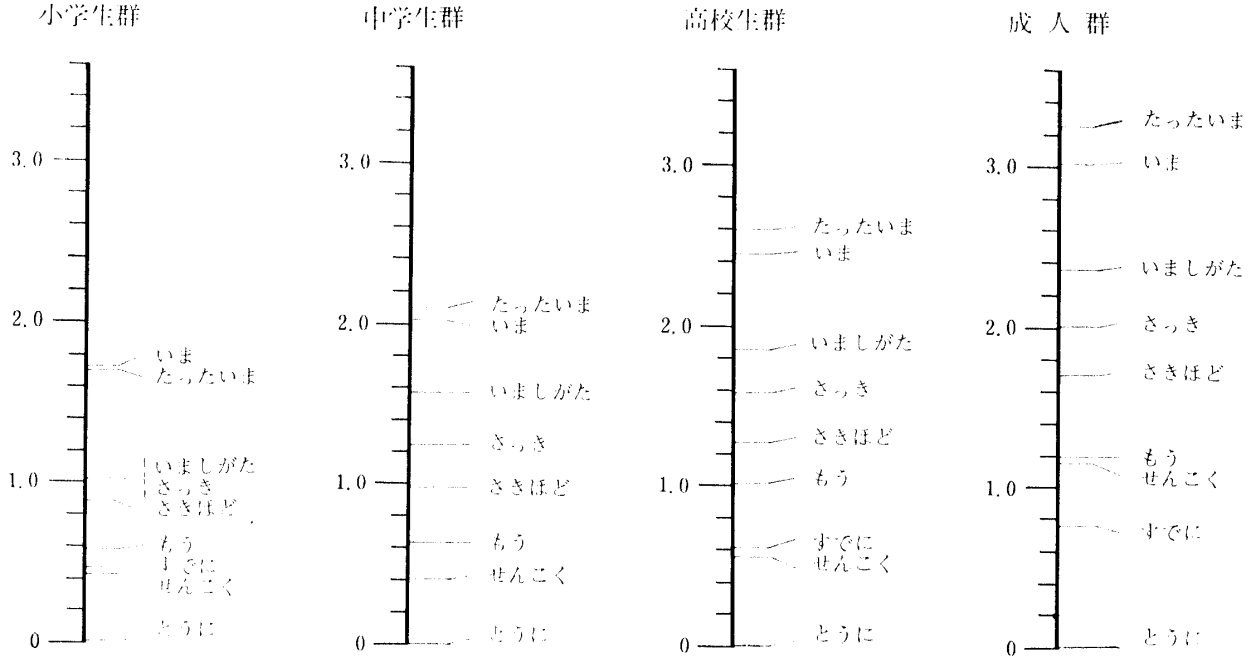


図4—2　心理的現在を中心とした実現の程度量副詞の尺度値（過去の副詞）



成人を被験者として程度量副詞相互間の程度量についての差異に関する判断が一対比較法によって求められた。

その結果によると，われわれが日常生活でしばしば使用しており，児童・生徒もよく理解していると思われる程度量副詞についても程度量副詞間の程度量に関する意味づけはあいまいであり，副詞相互間の程度量の差異が不明確なことばが多数存在することが明らかにされた。一般的な傾向として被験者の発達水準が進むにつれて程度量副詞相互の程度量に関する意味の分化が進み，小・中学生群の理解とわれわれ成人の程度量副詞に対する理解とは必ずしも一致していない。

このように程度量副詞の意味づけは発達水準を異にする被験者集団間に差異が認められ，これらの程度量副詞を評定尺度用語として評定尺度を構成するにあたっては評定尺度に使用することば相互間の程度量に関する弁別力が被験者にあるかといった検討をするなど細心の注意を払う必要があろう。

Ⅵ　総　括

評定尺度の構成法に関する研究の第一歩として心理学的研究分野で従来使用されてきた評定尺度の収集およびその分析を試み，さらに，程度量表現語彙リストの作成および程度量表現語彙の意味づけの実態を把握する目的で一対比較法による調査を小学生，中学生，高校，成人を対象に実施してきた。

その結果によると，従来わが国で作成され使用されてきた評定尺度の種類は非常に多いことが明らかにされた。評定尺度は個々の研究目的に応じてその都度構成されてきたものと思われ，ある一定の段階数をもつ評定尺度についてみても，心理学研究者が共通して使用している評定尺度は7段階評定尺度の「1非常に　2かなり　3やや　4どちらともいえない　5やや　6かなり　7非常に」を除きほとんどみられなかった。

評定尺度に使用される程度量副詞がわれわれの日常生活において非常になじみの深いことばで構成されるという気安さのためか，これまでの心理学研究における測定用具としての評定尺度の構成およびその使用があまりにも安易な気持からなされ，評定尺度に用いられた程度量副詞の妥当性やその数量化の妥当性についての検討が試みられることが少なかったように思われる。しかし，今回の程度量副詞の程度量に関する意味づけの実態調査結果からも明らかなように，われわれが日頃よく使用している程度量をあらわすことばについてみても程度量副詞相互間の意味の差異はあいまいで不明確なことばが多く，また，程度量副詞の意味づけも被験者の発達水準によって異なることが明らかにされた。

評定尺度の構成に際して用いられる程度量副詞は，その尺度に用いられている他の程度量副詞の程度量と有意に異なるものでなければならないことは評定尺度構成における程度量副詞選択の重要な要件であろうが，その差異が評定尺度構成者の程度量副詞の理解が成立しているということでは不十分で，その評定尺度を用いた調査や

実験の対象群においても程度量副詞の理解が成立していることが必要である。このような理由から評定尺度の構成，および，その使用にあたっては細心の注意を払い，常に評定尺度の構成の妥当性という面からの検討がなされなければならないであろう。

附　記　本研究を進めるにあたり終始ご指導・ご助言をいただきました名古屋大学教育学部続有恒教授に厚く感謝いたします。本研究を進めるにあたり快く調査にご協力いただきました名古屋市内の川原小学校，御器所小学校，弥富小学校，汐路小学校，笠寺小学校，桜小学校，呼続小学校，宝小学校，川名中学校，椙山学園中学校，昭和橋中学校，荻山中学校，桜田中学校，椙山学園高等学校，大同工業高等学校および岡崎市内の岡崎女子高等学校の先生および児童・生徒のかたがたに深く感謝の意を表するとともに，調査の実施にあたりご協力いただきました本学部教育心理学専攻学生諸氏および大学院学生諸氏に，また，調査の集計にあたりご協力いただきました佐々木雅子氏に厚く感謝いたします。